

日本大学 大学院

文学研究科 2027

● Graduate School of Literature and Social Sciences, Nihon University ●



思考の冒険はつづく。

文学研究科長からの メッセージ

変化のときこそ、人間と社会の問題に向き合う

人類が直面していた新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、私たちが当然としてきた日常に大きな変化をもたらしました。そのさなかにあっては、国や地域をまたがった往来が制限され、巣ごもりや自粛を余儀なくされ、グローバル化の進展や社会活動が大きなダメージを受けるかに思われていました。しかし現実はその逆で、私たちは、人間とこの世界のレジリエンスを目の当たりにしてきました。私たちは、情報コミュニケーション技術の発達とその力を借りて、物理的な空間と移動の制約から解放されてグローバルな社会活動を一気に加速させてきました。

しかし、この技術主導の成功の裏で何かが変わりつつあるのかもしれない。その何かとは、人と人との関係性やコミュニケーションのありかた、社会の機能や構造かもしれない。人びとの意識や価値観かもしれない。そして、その変化のなかで、これまでなかった様々な問題が生じている、これから生じるかもしれない。

人文科学や社会科学の諸学問は、人間と社会の根源的で普遍的な問題の探究に軸足を置いています。人間とは何か、社会とは何か、人間はこの社会のなかでどのように他の人間とかかわって生きているのか、社会はどのような構造をもっており、どのような仕組みで動いているのか。人間と社会のありかたはこれまでどのように変わってきたのか、これからどのように変わっていくのか、いくべきなのか。

みるからに青臭いこれらの問いを心に秘めながら、人文科学や社会科学の研究者は、コロナ・パンデミックによる変化のただなかにいる生身の人間として、この変化のただなかにある人間と社会の現実を冷静に見つめ、つねに新たな問いを発生し、大局的に複眼的な視点をもって考え抜き、調べ、そして語ります。

日本大学文学研究科には、そうした切実な、そして知的な関心をもった人びとが集まっています。ぜひ、ここで学問との新たな出会いにチャレンジしてください。



日本大学大学院文学研究科長
岡 隆

文学研究科の概要

日本大学大学院文学研究科は、文学部の人文・社会系学科を母体として成立し、博士前期課程(2年制)では9専攻、後期課程(3年制)では10専攻を設置し、人文科学・社会科学の学問伝統と、21世紀の最新の学問動向を接続する役割を果たしています。これまでも次代を担う研究者の養成とともに、優れた専門知識と実践力をもった職業人の育成を行ってきましたが、さらに複合的・学際的な教養や基礎的な学問を積み重ね、より発展的で高度な学問の持続と、多様化する現代のライフステージに合わせた専門教育を提供していきます。

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身に付け、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学マインド

- **日本の特質を理解し伝える力**
日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身に付け、その特質を自ら発信することができる。
- **多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力**
異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中で自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。
- **社会に貢献する姿勢**
社会に貢献する姿勢を持続することができる。

「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

[自ら学ぶ]

- **豊かな知識・教養に基づく高い倫理観**
豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。
- **世界の現状を理解し、説明する力**
世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。
- **社会に貢献する姿勢**
社会に貢献する姿勢を持続することができる。

[自ら考える]

- **論理的・批判的思考力**
得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。
- **問題発見・解決力**
事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

目次

- 02 文学研究科長メッセージ
- 04 教育情報
- 05 教授・大学院生インタビュー
- 06 日本語教育コース/アカデミック・ライティング
- 08 専攻紹介 哲学専攻
- 10 専攻紹介 史学専攻
- 12 専攻紹介 国文学専攻
- 14 専攻紹介 中国学専攻
- 16 専攻紹介 英文学専攻
- 18 専攻紹介 ドイツ文学専攻
- 20 専攻紹介 社会学専攻 (社会学コース)
- 22 専攻紹介 社会学専攻 (社会福祉学コース)
- 24 専攻紹介 教育学専攻 (教育学コース)
- 26 専攻紹介 教育学専攻 (体育学コース)
- 28 専攻紹介 心理学専攻 (心理科学コース)
- 30 専攻紹介 心理学専攻 (臨床心理学コース)
- 32 奨学金・研究奨励費制度 (概要)
- 34 研究サポート

[自ら道をひらく]

- **挑戦力**
あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
- **コミュニケーション力**
他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。
- **リーダーシップ・協働力**
集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
- **省察力**
謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

教育情報

教育研究上の
目的

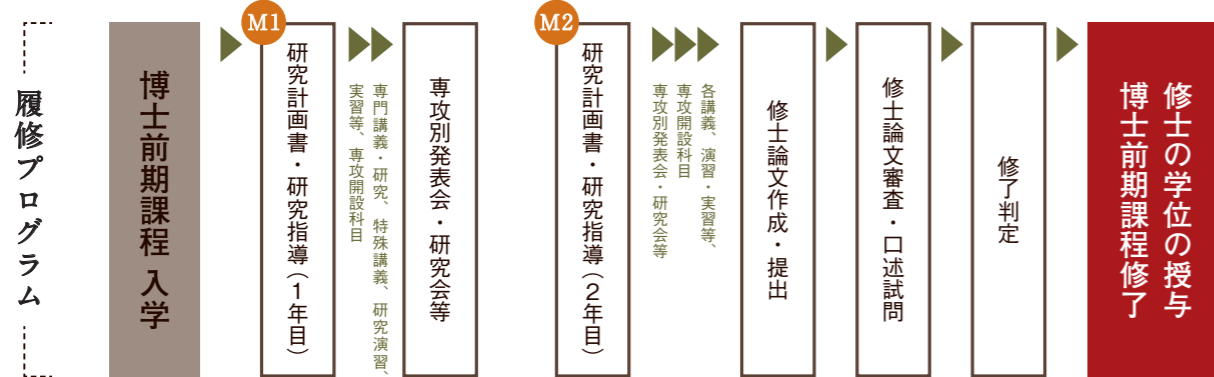
人文科学・社会科学の学問をそれぞれの学問的な特性を尊重しつつ、理論的な探求から実証的研究、先端的な実験・実習までをとり込んだ創造的かつ実践的なカリキュラムを用意し、言語と人間、歴史と文化、心と身体といった普遍的なテーマについて思索を積み重ね、社会的貢献度の高い研究者・教育者など、ゆたかな知性と感性を持った人材を養成する。

他の大学院の授業に参加
・首都大学院コンソーシアム（順天堂・専修・中央・東京電機・東京理科・東洋・法政・明治・共立女子大学大学院）
・国文学・国語学分野の単位互換制度（駒澤・鶴見大学大学院）
・日本大学大学院相互履修（日本大学の他の研究科）

文学研究科の組織

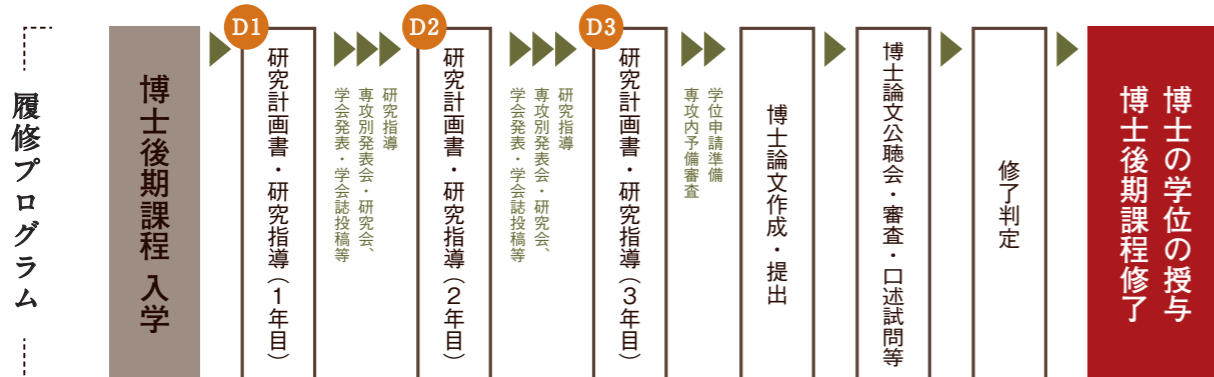
博士前期課程

哲学専攻	英文学専攻	教育学専攻（教育学コース）
史学専攻	ドイツ文学専攻	教育学専攻（体育学コース）
国文学専攻	社会学専攻（社会学コース）	心理学専攻（心理科学コース）
中国学専攻	社会学専攻（社会福祉学コース）	心理学専攻（臨床心理学コース）



博士後期課程

哲学専攻	中国学専攻	教育学専攻（教育学）
日本史専攻	英文学専攻	教育学専攻（体育学）
外国史専攻	ドイツ文学専攻	心理学専攻
国文学専攻	社会学専攻	



教授・大学院生

インタビュー

古典の謎を解く研究は、時空を超えた宝探し

くぼき ひでお
国文学専攻 教授 久保木 秀夫



古典文学は、手書きや印刷などで世に広まりましたが、その過程で誤写や意図的な変更が繰り返されてきたため、同一作品でも本文の異なる複数の伝本が存在します。現在私たちが読んでいるのは、最も流通していた伝本を活字化したものです。また古典文学の中には、題名や作品の一部分しか知られておらず、全体像が明らかでないものもあります。

私は、原本資料（活字化される前の大元の本）や古筆切（こひつぎれ、本を切断分割した断簡）を、全国各地の収蔵先で調査してきて、それらをもとに作品の系統や変遷を明らかにしたり、散佚してしまった作品を復元する研究を行っています。この研究を始めたきっかけは、学部4年次の卒業論文で古典文学の研究に本格的に取り組んだことでした。

それまでは本を読むことが好きという程度で国文学科に進学し、在学中は映画サークルに夢中になるなど、学問への関心はほとんどありませんでした。

ところが卒論を進めるうちに、文献に基づいて論理的に結論を導く過程の面白さに気づき、その魅力に引き込まれて大学院へ進学することに。院生時代には古筆切という断片的な資料から失われた作品を復元できることを知り、これこそ自分にとっての古典文学研究の醍醐味だと実感しました。そこから伝本や版本などの原本資料全般に関心を広げ、現在に至ります。研究はまさに「宝

探し」のようで、過去にはヤフオクで平安時代の貴重な古筆切を発見したこともあります。

私の授業では、書物の形態や内容を理解するために書誌学や文献学の基礎を学び、くずし字を読み解く技術を磨きます。原本資料の実物を使い、実践的に考証・解釈することで、研究の基盤となる調査方法を身に付けることを目指しています。

私が指導した院生の中には、博士課程在学中に五島美術館の大東急記念文庫で学芸員補として採用され、今も調査研究に携わっている人や、博士前期課程を修了後に大手金融機関に就職し、大学院で磨いた論理的思考力や問題発見・解決能力を実社会で活かしている人などがいます。大学院は、こうした現代社会で求められるスキルを磨くのに最適な環境です。

日本大学大学院文学研究科には、諸分野で活躍している研究者が揃い、学界からも高く評価されています。このような研究環境に身を置くことで、かつての私自身も研究を進める大きな力を得ることができました。また18の専攻科には、それぞれの分野で何かに夢中になっている人が集まっています。目的が完全にはっきりしてなくても大丈夫です。教員や仲間と交流し、自分で挑戦する中で、夢中になれるものや将来の道が見つかるはず。ぜひここで、自分の関心を探してみてください。

学生に薦めたい本
かの有名作品に対する新説を、深く精緻に論じた本。古典文学の研究はかくあるべきと突き付けられ、何より研究の面白さを堪能できる一冊。
『百人一首一編纂がひらく小宇宙』
著:田淵 句美子

社会学は世界を深く理解するための思考のツール

ショウ シヒョウ
社会学専攻（社会学コース） 博士前期課程 2年生 梶 思冰



私は中国の大学で放送メディア制作を学び、実践的な活動を多く経験しました。しかし卒業後に就職した際、知識の幅や深さが足りないことを痛感し、課題を克服してさらに成長するために大学院進学を決意しました。社会学を専攻したのは、「社会」という抽象的な概念への好奇心からで、社会の出来事やどのように起こり、その背景にどんな仕組みがあるのかを理解したいと思ったからです。

日本大学大学院を選んだ理由は、エスノグラフィー研究の第一人者である石岡先生の研究に興味を持ったことがきっかけでした。日本大学には幅広い分野を専門とする先生方がいるので、多様な視点とグローバルな課題に対する新しい考え方を得られる環境にも魅力を感じました。エスノグラフィーは、研究者が対象となる集団に一定期間滞在し、その日常を詳細に観察・記録することで、彼らの視点から世界を理解する研究手法です。私の研究テーマは、中国におけるジャズ音楽の周縁化とそのメカニズムを、エスノグラフィーの手法で解明しようとするものです。中国ではジャズが最初に伝わったポピュラー音楽の一つでありながら、政治的イデオロギーや社会的要因で長い間発展を阻まれました。私の研究では、この背景を探るとともに、ジャズ愛好家たちがどのように

音楽を追求し、自己のアイデンティティを築いてきたのかを明らかにしようとしています。

このテーマのヒントになったのは、石岡先生から紹介されたフランスの女性ジャズミュージシャンに関する研究です。男性中心のジャズ界で、周縁に追いやられた女性たちが壁を乗り越えてきた姿に共感し、それを参考にしながら中国におけるジャズの状況を深掘りしています。ジャズは私の大好きな趣味なので、研究にも力が入ります。

大学院での学びを通じて、私は物事をより深く考える力や、問題を論理的に捉える力を養うことができました。また、社会学は私の日常生活を見直すための実践的なツールであり、他者との関わり方や価値観を再考するきっかけとなりました。この経験は、私の人生を豊かにする大切な財産となっています。

修了後は日本で就職して、新しい可能性に挑戦したいと思っています。人生の中で仕事に費やす時間は多いですが、学生として純粋に学び、世界の仕組みや自分自身の価値観を深く考える時間は限られています。大学院では、外部の影響に縛られず、じっくりと考える時間と余裕が得られます。ぜひ、その貴重な時間を活かして、自分の可能性を広げてください。



日本語教育コース

日本語教育コース

文学研究科博士前期課程に設置された日本語教育コースは、「基礎コース」と「応用コース」の2つのコースから構成されます。国文学専攻の科目として開講されていますが、文学研究科の他専攻や理工学研究科地理学専攻に所属する学生も履修できます。いずれのコースも、所定の科目・単位数を修得すると、博士前期課程修了時に文学研究科からそれぞれのコースの修了証書が発行されます。応用コースは「登録日本語教員の資格取得に係る経過措置における日本語教員養成課程等の確認」を受けており、さらに、登録日本語教員養成機関及び登録実践研修機関の登録申請を予定しています。

基礎コース

日本語教育学を専門としない学生にも開かれたコース

指定の4科目9単位の履修を通じ、日本語教育学の基礎的な知識と国際化・多様化社会にふさわしい価値観を学び、「日本語教育実習」で日本語教育の実践力を養います。

- 日本語教育の基礎的な知識を学びたい
- 学部日本語教育コースよりも高度で専門的な内容を学びたい
- 自身の専門を深めながら、日本語教育の基本スキルを獲得したい
- 日本語教育を通じて国際感覚を磨きたい

応用コース

日本語教育学を専門的に学ぶコース

国文学専攻の学生を対象としています。指定の科目群から26単位以上修得することによって、日本語教育学及び日本語学の高度な知識とスキルを学び、研究能力を磨くとともに、より実践的な問題解決能力を身に付けることができます。

- 日本語教育を本格的に学びたい
- 実践力の高い専門職としての日本語教師を目指したい
- 日本文学・日本語学を専攻しながら日本語教育を学びたい
- 日本語教育の研究者を目指したい

日本語教育コースの3つのポイント

point 1 文学部キャンパスで学ぶすべての学部生・大学院生(博士前期課程)が履修できます。自身の専門を深めながら、日本語教育のために必要な知識とスキルを身に付けることができます。

point 2 日本語教育コースで修得した単位は、専攻により修了要件単位に含むことができます。コース修了後に発行される修了証書も将来の可能性を広げてくれます。

point 3 海外から日本に来て働く人が増える中、企業でも多様な人材育成の鍵として日本語教育の知識・スキルが重視されています。日本語ネイティブの学生にも海外の学生との交流の機会を提供し、多様化する社会に応える人材を育成します。

▶ 日本語教育コースに関する詳細は、右記の二次元コード又は下記のURLからアクセスしてください。
<https://chs.nihon-u.ac.jp/international/grec/japanese-education/>
 (関連動画集もあります)



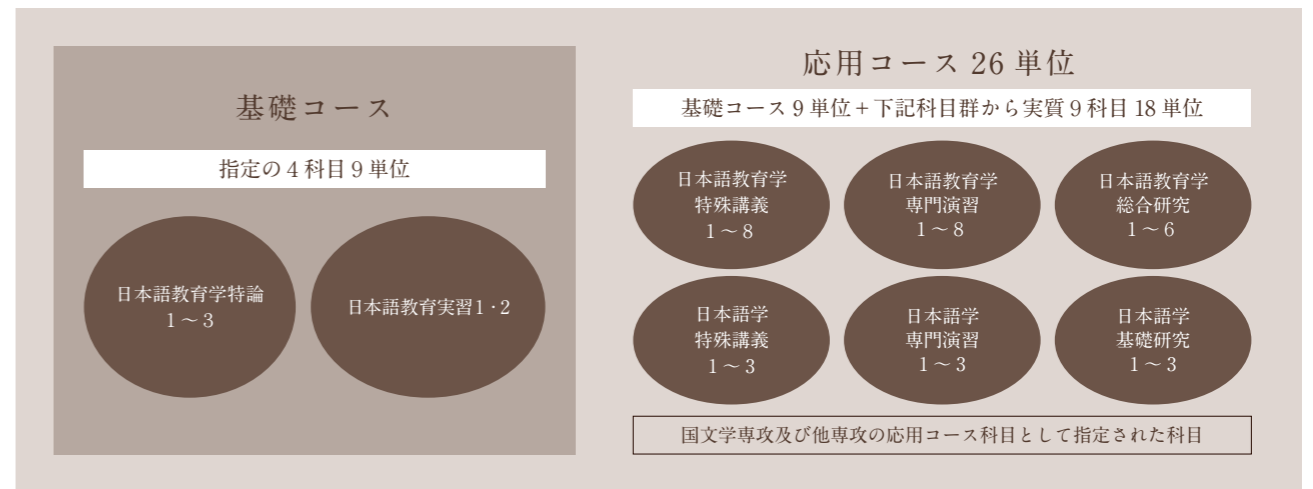
教員紹介 (科目担当者含む)

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○井上 優 教授	文法・意味、日中対照研究、文法教育
○田中 ゆかり 教授	社会言語学、方言研究、計量言語学

教員名	専門領域
○松崎 寛 教授	日本語教育学、音声学、第二言語習得研究
李 婷 准教授	日本語教育学、待遇コミュニケーション論、文章・談話論

履修系統図



※ 国文学専攻及び史学専攻の「日本事情」相当科目を履修した場合、応用コースの所要18単位中2単位に充当
 <史学専攻>日本史特殊講義1~8、日本史特殊研究1~8、日本史演習1~8
 <国文学専攻>古典文学特殊講義1~6、近現代文学特殊講義1~4、古典文学専門演習1~6、近現代文学専門演習1~4、総合研究1~6、古典文学基礎研究1~6、近現代文学基礎研究1~4

主な開講科目

日本語教育学特論	日本語教育コース必修科目。日本語教育学と日本語についての専門的知識と、日本語教育のための基本的な技能修得を目指す科目群。
日本語教育実習	日本語教育コース選択必修科目。日本語教育を行うに際して必要な教壇実習と、それを円滑に行うための講義で構成される科目群。
日本語教育学特殊講義	科目を担当する教員の専門分野に関連した講義科目群。
日本語教育学専門演習	専門的で高度な研究を進めるための演習科目群。
日本語教育学総合研究	学際的で先進的な研究の知識を幅広く身に付けることを目指す科目群。

想定される修了後の進路

- 国内教育機関(日本語学校や中等・高等教育機関など)の教職員
- 国内外の大学や研究機関の研究者
- 海外派遣(JICA海外協力隊や国際交流基金派遣専門家など)
- 企業・団体の職員

アカデミック・ライティング

アカデミック・ライティング

日本語と英語で学術的な文章を書くための基礎的スキルの獲得を目指す「アカデミック・ライティング」を開講しています。アカデミック・ライティングは、日本語/英語での学術論文執筆のための技能を修得するための「アカデミック・ライティング」及びその技能の指導法を学修するための「アカデミック・ライティング指導」によって構成されています。

アカデミック・ライティング (日本語 / 英語)

人文系・社会系・理学系の様々な専攻の学生が履修することを前提に、学術論文の執筆で求められるアカデミック・ライティング技能の育成を目的とする。例えば、各自の研究テーマ・研究計画に関する課題文章を書けるように、実践的・個別にトレーニングする。①内容、②構成、③文体、④文献リサーチ、⑤引用方法という5観点を中心に学ぶ。

アカデミック・ライティング指導 (日本語 / 英語)

将来のTAやインストラクターを含むアカデミック・ライティング指導者の育成を目的とする。例えば、対面による1対1のライティング指導(チュータリング)の技能を身に付けるために、①文章力、②文章診断力、③文章指導力を段階的に学び、受講者同士による実践的トレーニングを行う。



哲学専攻

専攻の概要

博士前期課程

本専攻では、知識と存在に関する分析・考察を行う哲学、人生の意味と行為の規範を探究する倫理学、美と芸術の本質を探究する美学、そして人間と聖なるものとの関わりを探究する宗教学の4分野で、学生の多様な問題関心に応えられるカリキュラムを用意しています。

前期課程1年次では、過去から現在に至る哲学の歴史を踏まえつつ、学生の皆さんが自力で明晰な思考を行うことができるようになるためのトレーニングを行います。そして1年次の後学期以降に、学生自らがテーマを設定し、先行研究を踏まえた上で思索を展開し、最終的には修士論文を執筆することになります。前期課程では、教育研究機関で引き続き研究に従事する人材だけでなく、広く社会で活躍できる人材の養成を目指しています。中学校教諭専修免許状(社会)、高等学校教諭専修免許状(公民)が取得可能です。

博士後期課程

本専攻では、知識と存在に関する分析・考察を行う哲学、人生の意味と行為の規範を探究する倫理学、美と芸術の本質を探究する美学、そして人間と聖なるものとの関わりを探究する宗教学の4分野で、学生の多様な関心や問題意識に応える指導を行います。

後期課程では、学生が主体的に自らの研究を推し進め、博士論文を書き上げることが目標となります。そのため、本専攻では、指導教授による博士論文指導に加えて、各自が書き進めている博士論文の中間発表の場として、毎年1回のコロキウムを開催しています。コロキウムでは、すべての教員とすべての学生が一緒になって問題の所在や改善点を議論し、博士論文執筆の手助けをします。

実績としては、毎年コロキウムを開催し、研究発表・討論が行われています。近年、2名が「博士(文学)」の学位を取得しました。

主な開講科目

哲学特殊講義 1・2

現代言語哲学の重要文献を取り上げて、言葉の意味の諸相を考察する。言葉の意味には、真理条件の内容、前提、推意などがあるが、これらの関係はまだ十分に明らかとなっていない。文献の精読・討議を通じて、「意味の正確な見取り図」を得ることを目指す。

倫理学史特殊講義 1・2

英語のテキストを精読し、補足・解説したうえで討議を行う。テキストには古代倫理学史に関するものを予定しているが、近現代を専攻する人にも興味を持つテーマを選ぶ。倫理学の根本問題を考究するとともに、英語の研究文献を読みこなす力を養成する。

美学史特殊講義 3・4

近代または現代の美学文献を原典または邦訳で精読しながら、そこに含まれる美学の諸問題をディスカッションする。ここ数年は、生の哲学やドイツ観念論の美学思想をもとに、哲学と藝術との関係、現代社会における美の意味などを検討している。

宗教史特殊講義 1・2

東洋における宗教思想史に関するテキストの講読・解説を行う。特にインド大乘仏教における華嚴思想や唯識思想を軸にしながら、西洋思想や現代の科学的視点からの比較思想的な考察も試みる。

哲学演習 1・2

フランス語もしくはドイツ語の哲学原典を精読する。一単語もゆるがせにすることなく、テキストを徹底的に分析することを目指す。令和7年度はミシェル・フーコーの権力論に関するテキストをフランス語で講読した。

宗教学演習 1・2

インド学及び仏教学に関する文献の原典を講読する。文献学はもちろんのこと、サンスクリット語の読解、漢訳等との対応関係を検討し、原典や写本類の扱い方、書誌学的な視点からのアプローチといった研究手法の習得を目指す。

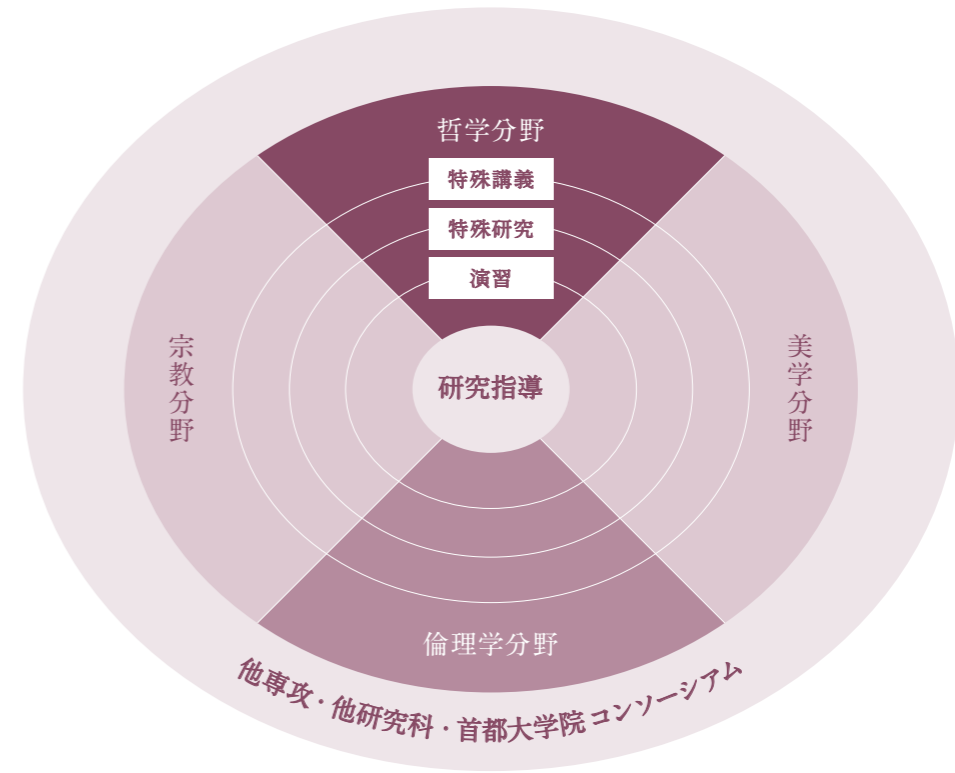
教員紹介 (科目担当者含む)

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○ 合田 秀行 教授	仏教学、比較思想
○ 高橋 陽一郎 教授	美学藝術学、ドイツ観念論
三平 正明 教授	言語と論理の哲学

教員名	専門領域
興津 香織 准教授	インド学、仏教学
土屋 睦廣 教授	古代ギリシア・ローマの哲学
長網 啓典 准教授	西洋近現代哲学

履修系統図



入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

哲学専攻は、哲学、倫理学、美学、宗教学の各分野、それらを相互に融合した分野並びに関連分野も含む学際的分野において、創造力と幅広い視野を合わせ持ち、社会に対して積極的に貢献できる専門的知識を有する教養人、研究者、教育者を育成することを目的とします。

本専攻は、もっとも長い歴史を持つ学問である哲学の遺産を引き継ぐとともに、現在の社会が直面する新たな問題に取り組むための、粘り強い思考力と優れた基礎的学力を持ち、熱意のある学生を受け入れます。具体的には、次のような学生の入学を許可します。

[博士前期課程]

- ・英語をはじめとする語学力を備え、真理探究への熱意と忍耐力を持つ学生
- ・広い知的な好奇心を持ち、新たな知識の獲得と問題解決への熱意を持つ学生
- ・国際的な視野を持ち、異なる考え方を持つ相手とも議論を通じて相互理解を目指すことのできる学生
- ・哲学、倫理学、美学、宗教学の専門的知識を通じて、社会への貢献を目指す学生

[博士後期課程]

- ・英語をはじめとする研究に必要な語学力を十分に備え、真理探究への熱意と忍耐力を持つ学生
- ・哲学、倫理学、美学、宗教学の研究に必要な高度な専門的知識と研究方法とをもって自立的かつ創造的に研究を進め、研究者並びに教育者として社会への貢献を目指す学生

教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

哲学専攻では、哲学、倫理学、美学、宗教学という4分野を置いています。しかし、これら4つの分野は相互に密接に関連していますので、学生の知的関心に応じて、部門にこだわることなく広い範囲の科目を履修することができるように配慮しています。

多くの授業は、一方的な講義というよりは、参加者全員によるディスカッション主体のゼミナール形式であり、講義という形を取っている授業であっても、参加者からの質問やコメントに応じて進行します。こうしたディスカッションを通じて、論理的思考力とコミュニケーション能力を養い、哲学的問題に主体的に取り組む姿勢を身に付けてもらうことを目指します。

[博士前期課程]

1年次から、アドバイザー制により、哲学・倫理学・美学・宗教学についての基礎知識の習得及び修士論文を目標とする研究課題の決定のための個別指導を受けることができます。

[博士後期課程]

指導教員による研究指導は引き続き行われますが、その重点は、学生が独力で、問題の設定からその解決までできるようにすることです。同時に、論文作成における様々なアドバイスをを行うとともに、研究成果発表の際のプレゼンテーション能力の強化を図り、学会における研究成果発表並びに博士論文作成の手助けをします。

修了の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

哲学専攻では、過去の哲学の遺産を継承しながら、現代社会が提起する哲学的問題に取り組むことができる、国際的視野を備え、専門的知識と論理的思考力によって、社会に貢献できる人材の育成を目指します。

[博士前期課程]

哲学の専門的知識を習得し、論理的思考能力並びにコミュニケーション能力を身に付け、自らの知識と能力を実社会に活かそうとする姿勢をもてることが、課程修了の基準です。

[博士後期課程]

哲学研究者として自立できるための、高度の専門的知識と能力を身に付け、独力で新たな哲学的問題を見つけ解決を図ることができるようになることが、課程修了の基準です。



修了生の進路

- 日本大学豊山女子中学校・高等学校
- 千葉県八街市役所
- (株)IDCフロンティア
- ハウス・トゥ・ハウス・ネットサービス(株)
- 敬愛大学
- 東京都教育委員会
- (株)ジョイフル本田
- 猿田彦珈琲(株)
- 横浜商科大学高等学校
- (株)三越伊勢丹
- 日本ソフトウェア(株)
- 明治座舞台(株)



史学専攻

専攻の概要

博士前期課程

博士前期課程では、学位（修士）論文を執筆し、豊かな歴史的学識をもって社会に貢献できる人材を養成することを目標としています。史学専攻に所属する教員の研究対象は、日本古代史、日本中世史、日本近世史、日本近現代史、東アジア前近代史、東アジア近現代史、イスラーム史、西洋前近代史、西欧近現代史、東欧・ロシア近現代史、日本考古学、東アジア考古学、日本文化財学などで、学生はこれらの地域・時代のなかから各自が専門とする分野を中心に講義・演習を受講して、自己の研究の糧とします。さらに、学生は指導教員のもとで自らの研究課題に応じた史・資料の収集、読解を行い、自己の研究を深めて、修士論文を執筆していきます。なお、史学専攻では、中学校教諭専修免許状（社会）及び高等学校専修免許状（地理歴史）の取得も可能であり、より高度な専門性を持った教育者の育成にも力を注いでいます。

博士後期課程

日本史専攻博士後期課程では、自立した研究者・教育者を育成することを目的としています。日本史専攻に所属する教員が研究対象とする時代・分野などは、古代史、中世史、近世史、近現代史、日本考古学、日本文化財学などです。学生は、自己の研究分野に応じた教員の指導のもと、それぞれの研究課題に関連した文献史料・考古資料などを精査し、史・資料を検索、調査、分析する能力の向上を図ります。さらに、先行論文を細読して、自己の研究意義を明確にした上で、学会報告や学術論文の作成を行い、課程博士の学位取得を目指します。

外国史専攻博士後期課程では、自立した研究者・教育者を育成することを目的としています。外国史専攻に所属する教員が研究対象とする時代・分野などは、東洋前近代史、東洋近現代史、西洋前近代史、西欧近現代史、ロシア・東欧近現代史、東アジア考古学などです。学生は、自己の研究分野に応じた教員の指導のもと、それぞれの研究課題に関連した文献史料・考古資料などを精査し、史・資料を検索、調査、分析する能力の向上を図ります。さらに、先行論文を細読して、自己の研究意義を明確にした上で、学会報告や学術論文の作成を行い、課程博士の学位取得を目指します。

主な開講科目

日本史特殊講義 1

受講生の専門分野で中心課題とする内容をテーマとし、その実像を把握することを目的とする。授業の方法は、受講生による報告、質疑応答を行う。

日本史演習 3

受講生の研究課題をテーマとし、修士論文の執筆に至るまで研究を深化させる。授業の方法は、受講生による報告、質疑応答を行う。

東洋史特殊講義 1

修士論文作成の前提となる史料分析能力の獲得をめざす。中国行政公文書などを史料テキストとして、参加者全員で輪読し、その成果に関して参加者全員で議論を行う。

西洋史演習 3

西洋前近代史の諸問題について、ギリシア語、或いはラテン語で書かれた史料の講読と研究発表、ディスカッションにより理解を深め、新たな視点を探る。

考古学演習 1

材質・形態・機能・用途などが多岐にわたる考古資料の知識・特性などを習得することを目的とする。授業の方法は、受講生による報告、質疑応答を行う。

教員紹介（日本史専攻）（科目担当者含む）

○印は後期課程研究指導教員

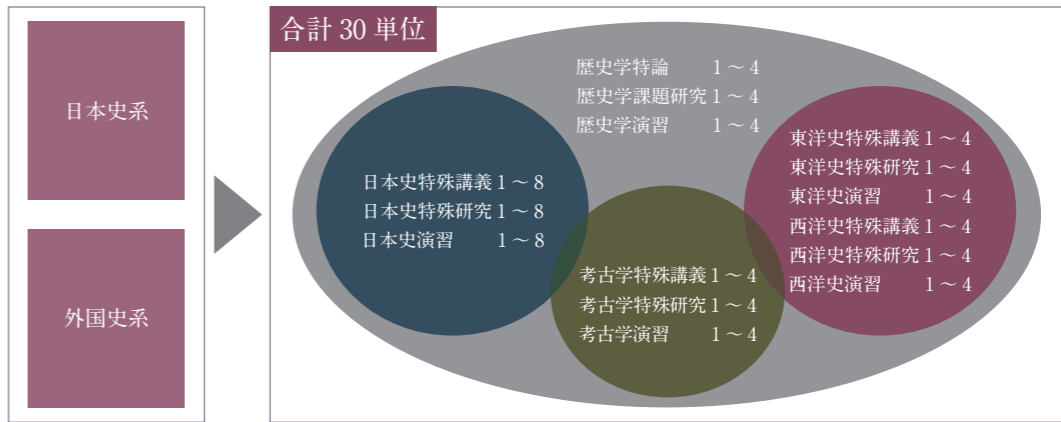
教員名	専門領域
濱田 晋介 教授	日本考古学、縄文・弥生時代の研究、土器・集落研究
○小川 隆久 教授	日本近現代史、政治史、社会史
○小川 雄 教授	日本近世史、江戸幕府論
○武井 紀子 教授	日本古代史、古代財政論、日唐比較律令論
○田中 大喜 教授	日本中世史、中世武士団、武家政権論、中世地域社会論
○田中 裕二 准教授	日本近現代史、博物館学、博物館運営

教員紹介（外国史専攻）（科目担当者含む）

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○粕谷 元 教授	トルコ近現代史、カリフ制論
○福島 恵 准教授	東西交渉史、北朝隋唐史
土屋 好古 教授	西洋近現代史、近代ロシア史
松重 充浩 教授	中国近代史、日中関係史、東北アジア地域史
○伊藤 雅之 教授	西洋古代史
○山本 孝文 教授	東アジア考古学、古代国家形成論、古代日中韓交流史
○新谷 崇 准教授	イタリア近現代史、カトリック教会史

履修系統図



入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

【博士前期課程】
史学専攻博士前期課程では、幅広い視野を養い、正確な歴史像把握の方法を身に付け、研究者・教育者を中心に、社会に対して積極的に貢献できる学生を育成することを目的とします。

本専攻では、有史以来の人間と人間社会のあらゆる営為の探究を通して、新たな学問的知見を示そうとする意欲的な学生を迎え入れます。

具体的には、次のような学生の入学を希望します。

- ・常に幅広い視野と専門分野に対する関心を持ち、知識の吸収と創造性を意欲的に追求する学生
- ・研究者、教育者など幅広く社会への貢献を目指す学生
- ・自己の研究を深め、学識豊かな見識を求める学生

【博士後期課程】

【日本史専攻】
日本史専攻博士後期課程では、日本史又は日本考古学の研究分野において、自己の研究課題についてさらに専門的に研究し、それぞれが研究者として自立できるように指導し、高度な学識を持った人材を養成することを目的とします。本専攻では、日本史又は日本考古学の理論と方法論を深めることで、自己の研究課題についてさらに専門的に研究を深め、本格的な研究者あるいは教育者として積極的に社会に貢献できる学生を迎え入れます。

具体的には、次のような学生の入学を希望します。

- ・常に幅広い視野と専門分野に対する関心を持ち、かつ専門的な知識を生かして、学術的な創造性を発揮できる学生
- ・本格的な研究者・教育者として自立し、社会への貢献を目指す学生

【外国史専攻】

外国史専攻博士後期課程では、東洋史、西洋史、または東アジア考古学の研究分野において、自己の研究課題についてさらに専門的に研究し、それぞれが研究者として自立できるように指導し、高度な学識を持った人材を養成することを目的とします。

本専攻では、東洋史、西洋史、または東アジア考古学の理論と方法論を深めることで、自己の研究課題についてさらに専門的に研究を深め、本格的な研究者あるいは教育者として積極的に社会に貢献できる学生を迎え入れます。

具体的には、次のような学生の入学を希望します。

- ・常に幅広い視野と専門分野に対する関心を持ち、かつ専門的な知識を生かして、学術的な創造性を発揮できる学生
- ・本格的な研究者・教育者として自立し、社会への貢献を目指す学生

教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

【博士前期課程】

史学専攻博士前期課程では、その教育理念に基づき、学位論文の執筆・完成によって、学識豊かな人材を育成していくことを目的とします。日本古代史・日本中世史・日本近世史・日本近現代史・東アジア前近代史・東アジア近現代史・イスラーム史、西洋前近代史、西欧近現代史、東欧・ロシア近現代史、日本考古学・東アジア考古学に重点を置いて設置された開講科目の中から、複数分野にわたって必要単位数以上を習得する必要があります。また、指導教員の指導のもとで所定の修業年限内に、歴史学に関する学会・研究会において研究報告を行い、専門分野の研究の成果として修士論文を作成し、学位論文審査及び外国語試験に合格した者に対し、修士(文学)の学位を授与します。

さらに、学生は指導教員の指示のもとで自らの研究課題に応じた文献史料・考古資料や研究論文の輪読・ディスカッションを行い、この結果得られた成果を学会口頭報告や学会誌などで公表しながら、学位論文の執筆を行っていきます。なお、史学専攻では、高等学校の地理歴史科及び中学校の社会科の専修免許状の取得も可能であり、より高度な専門性を持った教育者の育成にも力を注いでいます。

【博士後期課程】

【日本史専攻】
日本史専攻博士後期課程では、日本史又は日本考古学の分野において、博士前期課程において培ってきた歴史学に必要な理論、方法論を実践的に、かつ、より専門的に深めていくと同時に、それぞれの研究課題を、指導教員の指示に従って、学術的に高い水準を目指して追求していきます。学生は、各自が専攻する時代・ジャンルにおける史・資料及び先行研究の広範な渉猟と分析を行い、また、その他研究上必要不可欠な情報を、自ら能動的に探究・習得します。さらにそうした成果に基づいて、研究会や学会で発表し、学術雑誌に投稿可能なレベルの学術論文を作成します。学習及び研鑽の成果を活かし、将来的には高度な学識を持つ研究者又は教育者として自立するための、学術研究の一つの集大成である博士論文の作成にも繋がるように、各自に必要な指導を適宜行っていきます。

【外国史専攻】

外国史専攻博士後期課程では、東洋史、西洋史又は東アジア考古学の研究分野において、博士前期課程において培ってきた歴史学に必要な理論、方法論を実践的に、かつ、より専門的に深めていくと同時に、それぞれの研究課題を、指導教員の指示に従って、学術的に高い水準を目指して専門的に追求していきます。学生は、各自が専攻する時代・ジャンルにおける史・資料及び先行研究の広範な渉猟と分析を行い、また、その他研究上必要不可欠な情報を、自ら能動的に探究・習得します。さらにそうした成果に基づいて、研究会や学会で発表し、学術雑誌に投稿可能なレベルの学術論文を作成します。学習及び研鑽の成果を活かし、将来的には高度な学識を持つ研究者又は教育者として自立するための、学術研究の一つの集大成である博士論文の作成にも繋がるように、各自に必要な指導を適宜行っていきます。

修了の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

【博士前期課程】

史学専攻博士前期課程では、所定の年限在学し、日本古代史・日本中世史・日本近世史・日本近現代史・東アジア前近代史・東アジア近現代史、イスラーム史、西洋前近代史、西欧近現代史、東欧・ロシア近現代史、日本考古学・東アジア考古学に重点を置いて設置された開講科目の中から、複数分野にわたって必要単位数以上を習得する必要があります。また、指導教員の指導のもとで所定の修業年限内に、歴史学に関する学会・研究会において研究報告を行い、専門分野の研究の成果として修士論文を作成し、学位論文審査及び外国語試験に合格した者に対し、修士(文学)の学位を授与します。

在学期間を通じて、歴史学に関する、専門的で幅広い知識及び高度な一次史料の分析能力を身に付けるとともに、研究分野以外でも、必要とされる知識の習得、理解を自発的に行える能力を習得することが課程修了の基準です。

【博士後期課程】

【日本史専攻】
所定の年限在学し、指導教員指導のもとで所定の修業年限内に、日本史又は日本考古学の研究に関する学会・研究会において、毎年度研究報告を行います。その上で、専門分野の研究成果としての博士論文を執筆し、文学研究科の定める期間内に開催される公聴会において発表を行い日本大学学位規程に定められた審査並びに試験及び試問に合格した者に対し、博士(文学)の学位を授与します。在学期間を通じて歴史的史料の分析能力を身に付けるとともに、高度な日本史研究能力と、専門性を必要とする職業に従事するための能力を身に付け、本格的な研究者又は教育者として自立できることが課程修了の基準です。

【外国史専攻】

所定の年限在学し、指導教員の指導のもとで所定の修業年限内に、外国史又は外国考古学の研究に関する学会・研究会において、毎年度研究報告を行います。その上で、専門分野の研究成果としての学術論文を定期的に執筆し、文学研究科の定める期間内に開催される公聴会において発表を行い、日本大学学位規程に定められた審査並びに試験及び試問に合格した者に対し、博士(文学)の学位を授与します。在学期間を通じて、歴史的史料の分析能力を身に付けるとともに、高度な外国史研究能力と、専門性を必要とする職業に従事するための能力を身に付け、本格的な研究者又は教育者として自立できることが課程修了の基準です。

修了生の進路

- 小山市
- 日本大学職員

- ジーエフホールディングス株式会社
- 公益財団法人東京都スポーツ文化事業団

- 千葉県山武市役所
- 福島県白河市役所

- 知多信用金庫
- アルファクラブ武蔵野株式会社



国文学専攻

専攻の概要

博士前期課程

本専攻は、日本大学文理学部国文学科の卒業生をはじめ、他学部や全国の様々な大学からの卒業生、海外からの留学生、社会人など多種多様な人材が集う研究機関です。博士前期課程では、上代から近現代までの日本文学、日本語学、日本語教育学のあらゆる領域を研究対象とし、実証的な研究活動を最新の理論に基づいて行います。また、中学校教諭専修免許状(国語)、高等学校教諭専修免許状(国語)の取得を目指す人のために、日本語への深い理解と文学作品の魅力伝える力を育成する国語科教員養成プログラムを強化・充実させています。本専攻に設置されている「日本語教育コース」は、所定の科目を修得すると博士前期課程修了時にコース修了証書が文学研究科から発行されます。応用コースは「登録日本語教員の資格取得に係る経過措置における日本語教員養成課程等の確認」を受けており、さらに、登録日本語教員養成機関及び登録実践研修機関の登録申請を予定しています。

博士後期課程

博士後期課程では、それぞれの専攻分野について研究者として自立した研究活動を行い、さらに高度な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養います。21世紀の人文科学を先導する研究者・教員などの人材を育成します。日本大学国文学会が発行している学術雑誌「語文」や本専攻発行の「国文学専攻論集」などの独自メディアによって研究成果や論文を発表することが可能で、課程博士の学位取得のための環境が整っています。

主な開講科目

基礎研究	中学校・高等学校の国語の専修免許状取得を目指す場合に求められる日本文学・日本語学の専門的知識を、その分野を専門としない人でも身に付けられるよう配慮した科目群。
特殊講義	科目担当教員の専門分野を中心とした講義科目群。
専門演習	専門的で高度な研究を進めるための演習科目群。
総合研究	学際的で先進的な研究の知識を幅広く身に付けることを目指す科目群。
日本語教育学特論・日本語教育実習	日本語教育の基礎的知識と技能を身に付ける科目群で日本語教育コース「大学院基礎コース」の必修科目群。

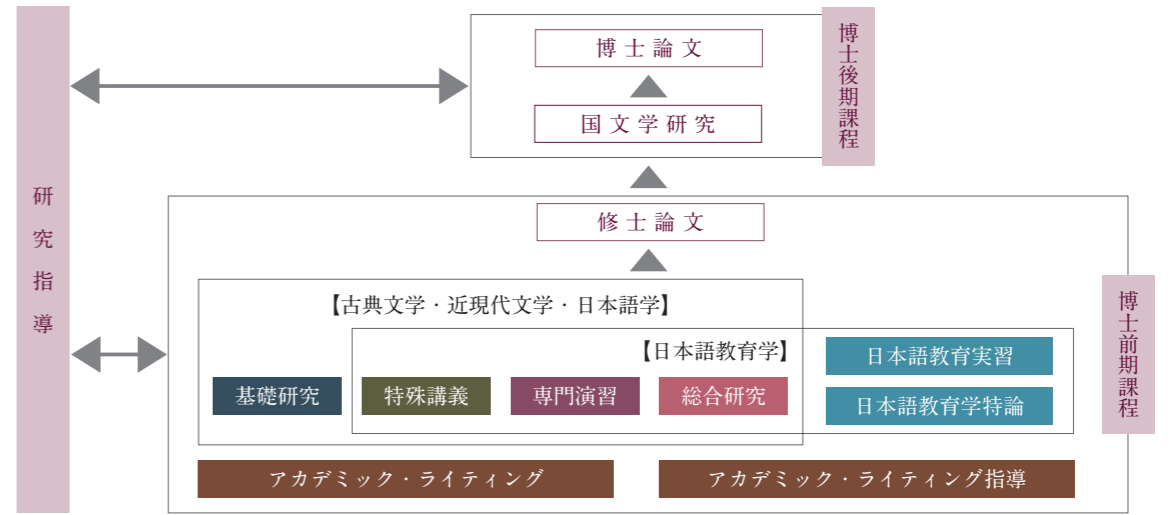
教員紹介(科目担当者含む)

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○井上 優 教授	日本語学、日本語教育学、文法・意味、日中対照研究
○門脇 大 准教授	近世文学、説話文学
○久保木 秀夫 教授	中古中世文学、書誌学
久米 依子 教授	近現代文学、児童文学
○高 榮蘭 教授	近現代文学、近代日本文学とナショナリズム
佐久本 佳奈 助教	近現代文学、戦後日本・沖縄文学、ジェンダー批評
○鈴木 功真 教授	日本語学、日本語と辞書の歴史
○鈴木 雅裕 准教授	上代文学、古事記

教員名	専門領域
○高野 奈未 教授	近世文学、和歌文学、古典注釈学
○田中 ゆかり 教授	日本語学、日本語教育学、社会言語学、方言研究
○袴田 光康 教授	中古文学、物語文学
藤平 泉 教授	中世文学、和歌文学
○堀井 一摩 准教授	近現代文学、批評理論
○松崎 寛 教授	日本語教育学、音声学、第二言語習得研究
李 婷 准教授	日本語教育学、待遇コミュニケーション研究、文章・談話論

履修系統図



入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

〔博士前期課程〕

国文学専攻前期課程は、上代から近現代までの日本文学と、日本語学、日本語教育学のあらゆる領域を研究対象とします。そして、実証的な研究及び最新の理論と方法に基づく研究実践を通して、前期課程修了者としてふさわしい社会に貢献できる研究者・教育者をはじめとする有為な社会人を育成することを目的とします。したがって本専攻前期課程では、日本文学、日本語学、日本語教育学に関する強い探究心と研究意欲を持ち、前期課程修了者としてふさわしい社会に貢献したいという熱意のある学生を求めています。

- ・ 日本文学、日本語学、日本語教育学に関する幅広い基礎的な知識を備えている学生
- ・ 知識の獲得、研究能力の向上に対して不断の努力を惜しまない学生
- ・ 広い視野に立ち、創造的な思考とそれに基づく議論のできる学生
- ・ 研究者、教育者として社会に貢献することを目指す学生とする

〔博士後期課程〕

国文学専攻後期課程は、上代から近現代までの日本文学と、日本語学、日本語教育学のあらゆる領域を研究対象とします。そして、実証的な研究及び最新の理論と方法に基づく研究実践を通して、後期課程修了者としてふさわしい社会に貢献できる研究者・教育者をはじめとする有為な社会人を育成することを目的とします。したがって本専攻後期課程では、日本文学、日本語学、日本語教育学に関する強い探究心と研究意欲を持ち、後期課程修了者としてふさわしい社会に貢献したいという熱意のある学生を求めています。

- ・ 日本文学、日本語学、日本語教育学に関する幅広い基礎的な知識を備えている学生
- ・ 知識の獲得、研究能力の向上に対して不断の努力を惜しまない学生
- ・ 広い視野に立ち、創造的な思考とそれに基づく議論のできる学生
- ・ 研究者、教育者として社会に貢献することを目指す学生とする

教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

〔博士前期課程〕

国文学専攻では、幅広い専門知識を備え、高い倫理観に基づく研究能力と問題解決能力を備えた有為な人材を育成するために、総合的で立体的なカリキュラムを編成しています。日本文学研究の分野は、上代から近現代までに関する「基礎研究」、「特殊講義」、「専門演習」、「総合研究」、日本語学の分野は、日本語学のあらゆる分野に関する「基礎研究」、「特殊講義」、「専門演習」、「総合研究」によって構成されています。「特殊講義」と「専門演習」が専門科目の中心であり、高度な知識の獲得と問題解決能力の修得を目指します。また、「基礎研究」は、その分野を専門としない学生を主な対象とし、中学校・高等学校国語の専修免許状の取得を目指す学生をも視野に入れて、幅広い知識の修得と大学院レベルでの学習基盤の形成を目指します。「総合研究」では、先端的で多面的なテーマに基づき、学際的・実践的内容の授業を行います。また、日本語教育学の分野は、「日本語教育学特論」、「日本語教育実習」、「日本語教育学特殊講義」、「日本語教育学専門演習」、「日本語教育学総合研究」で構成されています。これらは「日本語教育コース」の科目を兼ねており、所定の科目を修得すると、博士前期課程修了時に文学研究科からコース修了証書が発行されます。応用コースは「登録日本語教員の資格取得に係る経過措置における日本語教員養成課程等の確認」を受けています(10ページ「日本語教育コース」参照)。「アカデミック・ライティング(日本語)」は、日本語で学術的な文章を書くための基礎的スキルを身に付けるための科目、「アカデミック・ライティング指導(日本語)」は、日本語で学術的な論文を書くための技能指導の方法を学修するための科目です。加えて、文学研究科の他専攻の授業、単位互換協定を結んだ他大学の授業を受けることでも、視野を広げることができます。前期では、在学期間を通じて、自立した研究者・教育者として社会に貢献できるように、毎年1回以上、研究報告をすることを課しています。

〔博士後期課程〕

国文学専攻後期課程では、日本文学研究の分野、日本語学、日本語教育学の研究分野のいずれも、「国文学研究1・2」の履修などを通して学位請求論文の執筆に向けた高度な研究を推進できるよう指導する体制で編成しています。在学期間中、学内学会で研究発表や学外学術雑誌等への研究論文投稿を奨励し、また自立した研究者・教育者として社会に貢献できるように、毎年1回以上、研究報告をすることを課しています。

修了の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

〔博士前期課程〕

国文学専攻では、日本文学あるいは日本語学、日本語教育学に関する高度な専門的知識を備え、一定の倫理観に基づいて研究活動をする自立的な研究者を目指す人、あるいはその専門知識を前提に社会貢献のできる人に対して修士の学位を授与します。修士の学位を取得するには、カリキュラム・ポリシーに沿った日本文学、日本語学、日本語教育学及び関連領域に関する必要な単位を取得する他に、文学研究科の決めた手続きに従って修士論文を書くことが必須です。修士論文は、指導教員のもとで各自の研究テーマについて研究を進めます。その内容は、当該分野の発展に貢献し、十分評価される部分を含むことが求められます。

〔博士後期課程〕

国文学専攻では、「国文学研究1・2」を履修し、日本文学あるいは日本語学、日本語教育学に関する高度な専門的知識と高い倫理観を備え、自立した研究者として研究及びその教育の発展に寄与できる人材に対して博士の学位を授与します。博士の学位を取得するには、カリキュラム・ポリシーに沿った研究活動を行うとともに、文学研究科の決めた手続きに従った博士論文の執筆が必須です。また、博士論文は、第三者の目から見て十分な水準にあると判断される必要があります。査読のある全国的な学会誌に掲載された基礎論文の存在を客観的評価の根拠とし、学位授与に際してはそれを中心としたひとまとまりの体系を持つものであることを重視します。

修了生の進路

- 日本大学教職員
- 日本大学高等学校・中学校
- 日本大学櫻丘高等学校
- 日本大学習志野高等学校
- 日本大学明誠高等学校
- (学)日本大学第一学園
- (学)大垣日本大学学園
- 東京都教育委員会
- 岩手県教育委員会
- 五島美術館
- まいばすけっと(株)
- (株)啓程
- (株)日立ICTビジネスサービス
- 三井住友カード(株)
- (株)セントラルパートナーズ
- (株)プラトン



中国学専攻

専攻の概要

博士前期課程

本専攻の教育・研究対象は、古代から現代に至る中国及び中国語圏における語学・文学・芸術・思想・歴史・社会等多岐にわたります。具体的には、現代中国語文法、日中対照言語学、中国語史・中国文字学等、中国・台湾近現代文学、中国古典文学・文化史、中国思想文化、中国語圏映画史、中国ジェンダー史、台湾近現代史などが挙げられます。前期課程では、このように極めて広範な分野に関する専門的な知識とその運用能力の習得を図る教育を行っています。また、本専攻では、これらの分野を含む学術誌『中国語中国文化』を発行し、大学院生にも研究成果を発表する場を設けています。最終的には修士論文執筆を通じて、研究者・教育者として社会的貢献をなし得る中国学の専門家を養成します。

所定の教職科目単位を修得した上で、修士の学位を取得すると、中学校教諭専修免許状(国語)及び高等学校教諭専修免許状(国語)を取得することができます。

博士後期課程

後期課程では、これら中国学に関する専門的で幅広い教養の上に立ち、自らの研究に必要な学識を一層深め、文献学的な実証研究と先進的な理論に基づく研究を行います。また、本専攻では、これらの分野を含む学術誌『中国語中国文化』を発行し、大学院生にも研究成果を発表する場を設けています。最終的には博士論文執筆を通じて、高い識見と広い視野を具えた中国学の専門的研究者を養成します。

近年の研究テーマの例として、中国語略語構成の原理、三国志演義の成立と受容、中国現代文学思潮などが挙げられます。

主な開講科目

中国文化講義 1・2

近現代中国史に関する修士論文作成の前提となる史料分析能力の獲得を目指す。当時の新聞雑誌や手書き文書などの史料テキストを、参加者全員で輪読し、その成果に関して参加者全員で議論を行う。

中国学特殊研究 1・2

中国古典文学に関する原典資料の翻訳と注釈を担当者が作成し、受講生全員でそれらについて検討しつつ作品解釈を深めゼミ形式で討論する。

中国語学講義 1・2

現代中国語の語彙・文法・音声などを対象とし、日本語との対照を意識しつつ、中国語研究及び日本語母語話者に対する中国語教育の理論と方法を探る。

中国文学講義 1・2

五四新文化運動期から21世紀の今日までの中国文学を統一的で均質なものではなく、多様で多面的な文学として考える。台湾文学、中国語文学なども参照する。

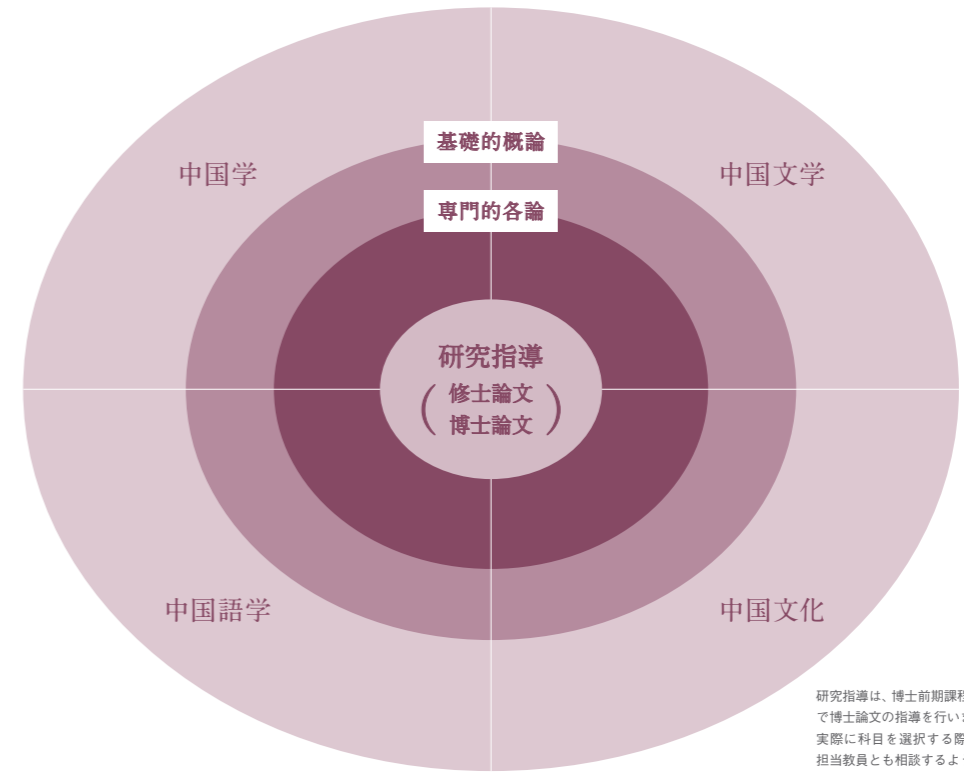
教員紹介 (科目担当者含む)

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○青木 隆 教授	中国思想文化論
○赤松 美和子 教授	台湾文学
○大川 謙作 教授	社会人類学、チベット現代史・文学
○片倉 健博 准教授	中国古典通俗文学
○神谷 まり子 教授	中国近現代文学

教員名	専門領域
小浜 正子 特任教授	中国近現代史・東アジアジェンダー史
張 麗群 特任教授	中国語学、日中対照言語学
○戸内 俊介 教授	中国語学・文学
○三澤 典美恵 教授	華語圏映画史・台湾近現代史
○渡邊 登紀 教授	中国古典文学

履修系統図



研究指導は、博士前期課程で修士論文、同後期課程で博士論文の指導を行います。実際に科目を選択する際は、シラバスを参照し、担当教員とも相談するようにしてください。

入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

[博士前期課程]
「中国学」・「中国語学」・「中国文学」・「中国文化」の各分野にわたる学術的知識と方法論を習得することによって、中国及び東アジアの文化に対する広範、かつ、深い理解を身に付け、研究・教育職を中心とした幅広い職種で社会的貢献を果たそうとする学生を受け入れます。

[博士後期課程]
「中国学」・「中国語学」・「中国文学」・「中国文化」の各分野にわたる高度な学術的知識と方法論を究め、中国及び関連諸地域の文化に対する専門的な学術研究を行うことを通して、自立した研究者・教育者として新たな学問的地平を切り開こうとする学生を受け入れます。



教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

[博士前期課程]
「中国学」・「中国語学」・「中国文学」・「中国文化」の各分野にわたり、科学的方法論に基づいた研究を行うことができるようカリキュラムを編成しています。具体的には、中国古典学・現代中国学を中心とした総合的な「中国学」、中国語史・中国語文法・中国語教育法・中国文字学などを含む「中国語学」、中国現代文学・古典文学を中心とする「中国文学」、東アジアの歴史学・中国思想・中国社会学・中国文化論などを含む「中国文化」、これら四分野の各科目を通じて専門的知識と先端的研究方法を、互いに関連づけ結合しつつ学んでいきます。その上で、指導教員の指導のもと、修士論文の執筆を進めます。また、各年度末に、専攻所属の全教員・全院生に向けて研究成果を発表します。

[博士後期課程]
指導教員による研究指導のもと、自らの専門分野において研究課題に取り組み、博士論文を作成していきます。その際、各年度末に専攻所属の全教員・全院生に向けて研究成果を発表するだけでなく、自立した研究者として学会等での口頭発表や、学術雑誌等への論文発表を積み重ね、積極的に学術的な対外活動を行い、博士論文執筆へとつなげていきます。

修了の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

[博士前期課程]
「中国学」・「中国語学」・「中国文学」・「中国文化」等の各分野にわたる理論と方法論を究め、中国及び関連諸地域に対する深い理解を身に付け、研究者あるいは教育者として社会的貢献を果たすことができると判断した者に対して、修士(文学)の学位を授与します。修士論文の審査に当たっては、先行研究を踏まえた上で、科学的な方法論を通じて到達した、新たな知見を含む独自の研究結果が実証的に記述されているかを検証するほか、将来研究者・教育者として社会的貢献をなしうる可能性を考慮します。

[博士後期課程]
「中国学」・「中国語学」・「中国文学」・「中国文化」等の各分野にわたるより高度な理論と方法論を究め、中国及び関連諸地域に対する高度に専門的な理解を通して、本格的な研究者あるいは教育者として新たな学問的地平を切り開くことができると判断した者に対して、博士(文学)の学位を授与します。最終審査に当たっては、先行研究を踏まえた上で、科学的な方法論を通じて到達した、当該分野の学術的發展に大きく寄与し得る独自の研究結果が実証的に記述されているかを検証するほか、学会発表などの在学中の研究成果、公聴会におけるプレゼンテーションを含め、将来当該分野の先進的研究者として活動し、社会的貢献をなしうる可能性を考慮します。

修了生の進路

- 日本大学教員
- 東京都高校教員
- 埼玉県中学教員
- 日本大学職員
- 私立高校教員
- 中国国内の大学教員
- (公財)日本台湾交流協会
- (株)日鐵商事
- (株)日本コカ・コーラ
- (株)セイノー商事
- (株)東日本旅客鉄道
- (株)同学社



英文学専攻

専攻の概要

博士前期課程

博士前期課程では、英米文学・英語学(英語教育を含む)の専門知識と研究方法を深め、言語と文化の探究をも視野に入れつつ、新たな研究領域を切り拓こうとする意欲ある学生を迎え入れます。
英米文学の授業では、シェイクスピアから現代に至る英語圏の文学作品を扱います。作品の文体や、文化的、歴史的背景についての洞察力を身に付け、描かれた思想や倫理への理解を深めることを目的とします。英語学の授業では、英語という言語の理論的、抽象的な側面を分析する分野から、具体的な事例にそって実証的な側面を研究する分野まで幅広くかつ高度な最先端の研究を行っています。例年、英文学・米文学・英語学の3分野それぞれにおいて、著名な講師による「大学院特別講義」を受講することができます。教職課程科目を修得すると、前期課程修了時に中学校教諭専修免許状(英語)・高等学校教諭専修免許状(英語)を取得することができます。

博士後期課程

博士後期課程では、英米文学・英語学(英語教育を含む)のより高度な専門知識と研究方法を深め、独自の視点をもつ本格的な研究者あるいは教育者の道を進もうとする意欲ある学生を迎え入れます。
英文学科及び英文学専攻に直結する学術研究機関として「日本大学英文学会」があります。英文学専攻の学生は、年数回開催される「月例会」あるいは「年次大会」において研究成果を発表したり、学会機関誌「英文学論叢」や日本大学大学院英語英文学研究会の学術雑誌「英語英文学論叢」に論文を投稿することができます。いずれも他大学に送付され、高い評価を得ています。また、前期課程の学生と共に、専攻内で開講されている大学院の授業、及び例年、英文学・米文学・英語学の3分野それぞれにおいて、著名な講師による「大学院特別講義」を受講することができます。

主な開講科目

英米文学研究 1・2

世界文学の最高峰と評されるメルヴィルの『白鯨』という作品の舞台が「海」であることは大変重要である。作家は生命の源である海にユートピアを求めたのであり、白鯨追求を通して海そのものを描くことで魂のユートピアを探求したのだ。原書の精読を通して、『白鯨』の奥深さに触れ、その本質的かつ普遍的な意味を考察する。さあ、叙事詩の大海原に船出しよう!!

英語圏文学特殊講義 1・2

This seminar seeks to expand students' range of English language literary knowledge and reading. As the English language spreads around the globe, different cultures, societies, and places are reflected in an increasingly influential amount and variety of literature. This seminar will explore the global range of English literature, and its relationships to British and American literature, by closely reading and discussing literature in various forms, including realist and postmodern novels, film, and short stories. Another focus of this course is on writing literary analysis and criticism in English.

英語学応用研究 1・2

PC、電子テキストを使用し、Brown コーパス、BNC などの均衡コーパス、BYU などのオンラインコーパスを使用して、検索方法、データ処理の実践・実習を行いながら、英語の実態を調査・研究する。特に異なるレジスターにおける言語使用の相違、経時変化に焦点を当て、2次資料に依存せず、変化の妥当性を検証できる技量の習得を目指す。

英語学研究 1・2

この科目は演習を通し、外国語学習に関わる実証研究を進めるために必要な知識・技能を得ることを目的とする。主な目標は、効果的な外国語習得に有益な要素とは何かを常に知ろうとする意識を備えること、次に、そのような要素を探るための研究方法を身に付けること、そして、外国語学習に関わる先行研究を批判的に分析する能力を身に付けることの3つである。

英語学講義 1・2

古英語・中英語の言語現象の観察を中心に、英語の通時的変化について学んでいく。言語変化の理論的側面にも着目し、英語の統語変化や意味変化について、具体的なテーマを決めて議論を行う。

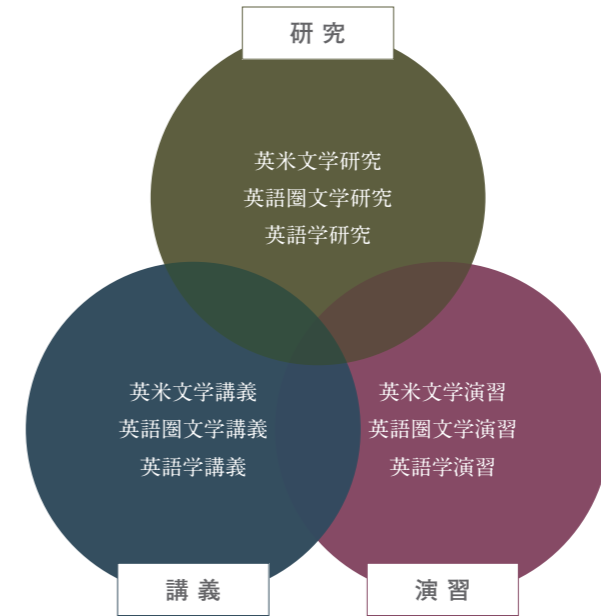
教員紹介 (科目担当者含む)

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○ 飯田 啓治朗 教授	初期近代英文学(シェイクスピア)、精神分析批評
○ 一條 祐哉 教授	意味論、認知言語学
○ 隅田 朗彦 教授	英語教育学、ライティング指導法、動機づけ等の学習者要因
高橋 利明 教授	ホーソン論、メルヴィル論、19・20世紀アメリカ文学

教員名	専門領域
○ Myles Chilton 教授	英語圏文学、英語圏文化史、文学批評理論
○ 塚本 聡 教授	コーパス言語学、英語史、統語論
保坂 道雄 教授	英語史、統語論、進化言語学
○ 前島 洋平 教授	20世紀イギリス文学
○ 牧野 理英 教授	現代アメリカ文学、エスニック文学、英語圏日系文学

履修系統図



入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

英文学専攻では、英文学専攻のカリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーを達成するために、英米文学・英語学(英語教育を含む)領域の基本的な知識を有し、修了後は、国内外の各研究分野で活躍しようという意欲に満ちた学生を迎え入れます。

[博士前期課程]
英米文学・英語学(英語教育を含む)の専門知識と研究方法を深め、言語と文化の研究をも視野に入れつつ、新たな研究領域についての深い学識と教養を体得する意欲に満ちた学生を迎え入れます。

[博士後期課程]
英米文学・英語学(英語教育を含む)のより高度な専門知識と研究方法を深め、更に深い学識と教養に基づく独自の視点を持つ本格的な研究者あるいは教育者の道を進もうとする意欲に満ちた学生を迎え入れます。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

英文学専攻では、英米文学・英語学(英語教育を含む)のより高度な専門知識やその研究方法を深化させ、言語と文化の関わりについての多角的な考察によって新たな研究領域を切り拓くことを目指します。本専攻では、その目的のため、上記学問領域に重点を置いたカリキュラムを編成し、文学研究者も語学研究者も偏りのないバランスのとれた授業を履修します。そして、指導教員による専門指導のもとに積極的な研究活動を行うことにより、論理的分析能力、自己表現能力を修得させると同時に、プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の強化を図ります。

[博士前期課程]
各専門分野について多彩で充実した選択授業科目を設置しています。研究に必要な専門知識の修得に加え、広い視野から学問をとらえ、それらを自らの研究に活かすことを通じて、自立的で柔軟な思考力の涵養を目指します。また、2年次には修士論文の中間発表会が開催され、活発な議論が行われます。さらに院生は、その修士論文を指導教授の査読を経て、本専攻発行の機関誌「英語英文学論叢」に投稿し、掲載される機会が与えられています。

[博士後期課程]
指導教員による綿密な研究指導のもとに専門分野における研究課題に取り組み、博士學位論文の作成を目指します。自立した研究者の育成を目指すため、日本大学英文学会の月例会での口頭発表の機会もあり、そこでの極めて活発な議論は論文完成への大きな礎となります。また、院生は、論文を日本大学英文学会機関誌「英文学論叢」に投稿し、掲載される機会が与えられています。さらには、学外の研究団体での口頭発表・論文投稿も積極的に奨励しています。

修了の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

英文学専攻では、英米文学・英語学(英語教育を含む)研究を通じた社会と人間との関係性を追究し、言語の本質の探究を通して、高度な専門性と国際性を有する社会貢献のできる、教養豊かな人材の育成を目指します。

[博士前期課程]
英米文学・英語学(英語教育を含む)各分野についての、より高度な総合的研究を通じて、研究課題を自ら設定し、英米及び英語圏文化のエッセンスに触れ、その言語・文化構造の深層を考究することによって、それぞれの研究領域についての深い学識と教養を体得した人材に学位を授与します。

[博士後期課程]
博士前期課程で培った研究姿勢と研究成果を踏まえた上で、英米文学・英語学(英語教育を含む)各分野における学識と教養を深め、短期・中期的な研究計画に基づき、総合的、専門的、学際的な研究を遂行する中で、學位論文を完成させることができ、さらに今後、研究・教育職において大いに活躍が期待される人材に学位を授与します。



修了生の進路

- 日本大学高等学校・中学校
- 千葉日本大学第一高等学校・中学校
- 日本大学(各学部)
- 茨城県教育委員会
- 日本大学鶴ヶ丘高等学校
- 国士館高等学校
- 松山大学
- 埼玉県春日部市役所
- 日本大学習志野高等学校
- 昭和鉄道高等学校
- 筑波大学
- JR東日本(株)



ドイツ文学専攻

専攻の概要

博士前期課程

博士前期課程では、「ドイツ文学・語学・文化」を研究の柱として、中世から現代にいたる文学研究、広い言語学的知見からのドイツ語研究、さらに映画、メディア学等に関する文化学的研究まで、幅広い講座の開設により総合的な基盤に立つ研究者の育成に努めるとともに、ドイツ語教育者としての能力養成のためにドイツ語教授法の講座も開設されており、高いドイツ語力の育成と幅広く柔軟な判断力を備えた社会人、大学ドイツ語教員、独創的な研究者を輩出することを目指しています。また、ヨハネス・ゲーテンベルク大学（マインツ）やベルリン自由大学（ベルリン）などへの留学による成果を研究生活に活かす機会も設けられています。大学院生によって運営・発行される学術誌『報告』では、研究成果が論文の形で発表されています。課程修了後は後期課程への進学者や教員の他、旅行業、特許翻訳業などの一般企業への就職者も多く輩出しています。

博士後期課程

博士後期課程では、前期課程で養われた研究のための基礎能力とドイツ語専門知識をさらに発展させ、ドイツ文学、語学、文化、及びドイツ語教授法それぞれの領域を専門とする教員の指導のもとに、各専門領域やテーマについて研究を深化させながら、より高度な研究能力と、奥行きのある学識を身に付け、自立した研究者、教育者となることを目指します。毎年数回にわたり国内他大学の教授を招き、幅広い領域に関する特別講義が実施され、ドイツ、オーストリア、スイスなどの著名な研究者や作家を招聘しての講義や朗読会なども催され、ドイツ語圏の最新の情報に触れることができます。また、諸関連学会・学術誌への投稿を通じて、公に認められる業績としての論文発表が可能です。課程修了後の進路には、大学ドイツ語教員、文理学部や他大学の研究所研究員などがあり、日本のドイツ研究を担う人材を多く輩出しています。

主な開講科目

ドイツ文学演習

中世から啓蒙主義、疾風怒濤、古典主義、ロマン派、自然主義、表現主義、第二次大戦後等々、時代全般にわたり学生の要望に応えられるような態勢を整えている。

ドイツ文化研究

文化領域としては、中世の騎士精神から映画、音楽に至るまで多彩な授業を用意、また思想領域では、とりわけ現代の社会文化状況との関連での考察を丹念に行っている。

ドイツ語学演習

語学的・実務的な知識・技術や経験だけでなく、インタラクティブな方式で専門的研究活動の基本的な考え方や総合的な展望を持つような研究者の基礎を養う。

ドイツ語教授法演習

ドイツ語教授法の歴史の変遷、日本の現状と問題点、学習目標と教材、教材加工、教場での留意点などを学び、ドイツ文学科1年生クラスを対象に模擬授業を行う。

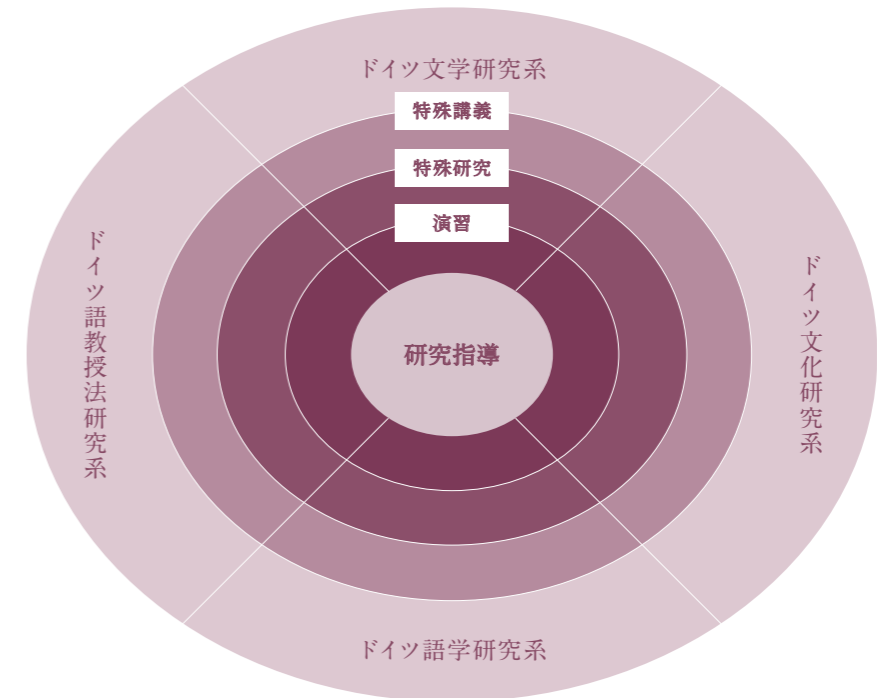
教員紹介（科目担当者含む）

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○板倉 歌 教授	ドイツ語学、日独対照言語学、語用論
○渋谷 哲也 教授	ドイツ映画、映像論
○関口 なほ子 教授	19・20世紀ドイツ文学
○浜野 明大 教授	中世ドイツ文学
○跡守 美音 教授	ドイツ語圏の現代文学

教員名	専門領域
保阪 靖人 特任教授	現代ドイツ語学
SCHMIDT, Maria Gabriela 特任教授	言語学、言語史、言語文化、言語教育
○SCHWARZ, Thomas 教授	現代ドイツ文学、文化学

履修系統図



入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

学部あるいは博士前期課程在学中に修得した内容を土台として、専門性のより高い研究を目指す熱心で意欲的な人を求めています。

[博士前期課程]
学部で学んだ内容をさらに専門的に追求する意欲を持つ人を歓迎します。学部で培った基礎学力に肉付けし、確かな語学力に基づき専門文献に積極的に取り組み、自らの考えを自分のことばで表現し、不断の努力を怠らない知識欲旺盛な学生を求めています。

[博士後期課程]
前期課程を修了し、ドイツに関わる各専門分野について専門性のより高い踏み込んだ研究を志す意欲的な人材を歓迎します。明確な目的意識と強い探究心を持ち、先行研究と取り組み批判的な思考を展開し、将来研究者、教育者、教養人として社会への貢献を目指すような人を求めています。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

ドイツ文学専攻では、ドイツ語能力を基盤に、ドイツ語学・文学・文化及びドイツ語教育の各分野において、広く深い知見を持ち、その専門的な学識と経験をもって社会に貢献できる優れた人材を育成することを目指しています。多様な開講科目の他に学外の各専門分野の研究者を招いての特別講義も用意され、ドイツ語圏大学への留学も含め研究のためのなしうる限りの可能性を追求し、学び手の能力を最大限に発揮できるよう配慮しています。

[博士前期課程]
ドイツに関する語学・文学・文化・教育などの各専門分野について、多様な演習・講義・研究科目が開講されており、同時に分野横断的な学習を行うことも可能であり、他方で修士論文執筆を念頭に置いた専門的方向性の高い指導体制が整えられています。ドイツの提携大学との交換留学で現地資料に囲まれた環境に身を置いて学ぶ機会も用意されており、教職に関してワンランクアップの資格の取得も可能です。

[博士後期課程]
専門分野の指導教員による緻密な指導計画に基づき、より専門性の高い研究課題について踏み込んだ研究を行えるように指導します。博士論文執筆を念頭に置いた研究に取り組み、毎年開催される学術研究発表会で発表をすることによって多様な視点からの意見を受けることも可能です。また、交換留学や学外の専門家による大学院特別講義の機会も用意されており、様々な角度から在学生の研究の指導並びに支援を行います。

修了の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

ドイツ文学専攻では、学問の真理追究を通して、高度な専門性を有し、たゆまぬ批判的な思考を積むことで、人類の幸福と発展に寄与できる人材の育成を目指します。

[博士前期課程]
ドイツ語読解力・運用能力を身に付けることによって、ドイツ語圏を中心とするヨーロッパの文化と社会の背景を理解し、学問上の基本的な知識を基盤として専門研究を進められるようなレベルの学生に修了を認定します。課程で得た語学能力を活かすことによって、専門的職業を担うために必要となる知識及び能力を身に付けていることを示すことができる学生に修了を認定します。専門分野での問題解決能力はもちろんのこと、国際的な視点を持ち、ドイツ語を通じて社会に貢献できる能力を獲得している学生に修了を認定します。

[博士後期課程]
研究者として専門分野における問題解決のための基礎的な能力を持ち、問題解決のためのアプローチ並びにその解決能力を論文並びに口頭発表の形で示すことができることを基準とします。この基準に基づいて、博士論文執筆を行います。ドイツ語で議論し、ドイツ語で論文を執筆することができる能力を身に付けることも課程修了の基準となります。また、現地においても十分に語学能力を駆使できるレベルに達していることが課程修了の基準です。

修了生の進路

- 東京都市大学
- 国士館大学
- ゾンデルホフ & アインゼル法律特許事務所
- 日本大学豊山中学校・高等学校
- (学) 佐野日本大学学園
- 東京学館高等学校
- (株) エイチ・アイ・エス
- エヌ・ティ・ティ・システム開発 (株)
- セキスイエクステリア (株)
- 大黒工業 (株)
- 日本通運 (株)
- 図書館スタッフ (株)



社会学専攻（社会学コース）

社会学コースの概要

博士前期課程

前期課程では、社会学理論と方法論への理解を深め、現代の社会現象を分析・解明するために、社会学を柱に幅広い視野と専門性の高い知識等を身に付けた人材を養成することに重点を置いています。理論・実証・応用の各研究領域に対応した科目が設置されており、担当教員による丁寧な研究指導とコミュニケーションを通じて、自らの研究をより深めていくことができる環境が整っています。取得可能な資格としては、高度な調査能力を身に付けたプロに与えられる専門社会調査士があります。

博士後期課程

後期課程では、社会学理論と方法論に立脚した高度な研究能力及び豊かな学識を養うことで、研究者として自立して研究活動を行い、現代社会の究明に資する本格的な研究者あるいは教育者になる人材を養成することに重点を置いています。指導教員による個別指導と研究会の開催を通じた大学院担当教員による集団指導体制のもと、博士論文執筆に専念できる環境が整っています。

主な開講科目

マスコミ社会学理論基礎研究

社会学の古典理論を用いてマスコミから受ける影響過程を分析し、その解明を試みる。マスコミ基礎研究の文献を読み、メディアから発信されたコンテンツを正確に理解するために必要な、リテラシー能力の向上をめざし、各自の研究テーマに適用したい。

社会問題論応用基礎研究

社会病理学概念や理論枠組・歴史・研究動向を学び、現代日本における具体的な社会病理現象を社会的に分析・考察する力をつける。社会病理現象の解明に必要な調査・研究の方法論も養成する。

家族社会学実証基礎研究

日本における家族社会学の古典的な文献、及び、国際的な家族社会学研究の中から特に重要と思われる文献を講読・検討することを通じて、現代日本の社会構造の理解にとって家族社会学が有する意義について講述する。

都市・地域社会調査演習

「専門社会調査士」資格取得のための必修科目に位置づけられている科目であり、各自の研究計画を固め、社会調査を実際に企画・設計して実査につなげていくことを目標とする。

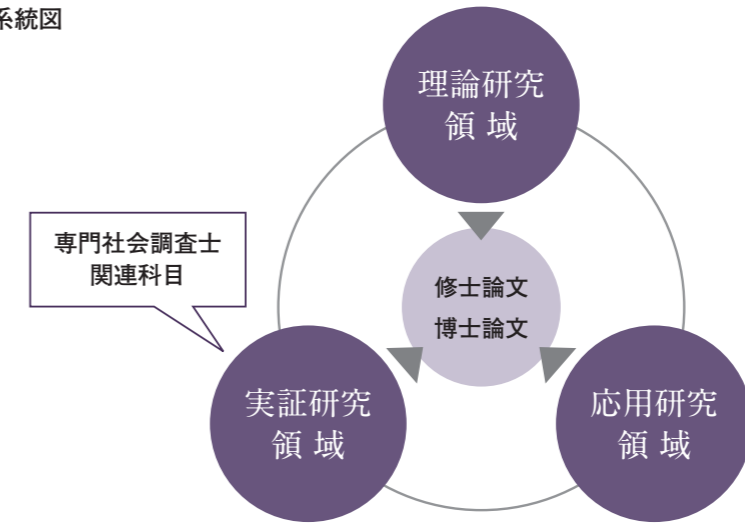
教員紹介（科目担当者含む）

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○石岡 丈昇 教授	比較社会学、文化人類学、身体文化論
○犬飼 裕一 教授	社会学史、社会学理論、知識社会学
○小川 豊武 准教授	文化社会学、メディア・コミュニケーション論、エスノメソドロジー
○菊池 真弓 教授	ライフコース論、高齢者福祉、コミュニティ復興論
○久保田 裕之 教授	家族社会学、福祉社会学、政治哲学
○菅野 剛 教授	人間科学
○立道 信吾 教授	産業社会学、資本主義の多様性論、社会調査法
○中村 英代 教授	臨床社会学、社会病理学、ジェンダー論
○中森 広道 教授	災害社会学、社会情報論、災害情報論

教員名	専門領域
○濱本 真一 准教授	教育社会学、社会階層論、数理社会学
○松橋 達矢 教授	歴史社会学、都市研究、地域社会論
○森 一平 教授	エスノメソドロジー・会話分析、社会(学)理論、教育社会学
○山北 輝裕 教授	社会史、質的調査、社会問題
後藤 範章 特任教授	都市社会学、ビジュアル社会学、社会調査論
仲川 秀樹 特任教授	マス・コミュニケーション論、集合行動論、メディア文化論

履修系統図



入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

社会学専攻社会学コースでは、社会の複雑化とともに高まりゆく社会的要請に対して、社会学の領域における高度な学識と問題解決能力を有することで、学問の進展や、社会に対する積極的貢献に寄与する専門的職業人の育成を教育目的とします。本コースでは、この目的のもと、社会学の学問的成果を積極的かつ創造的に社会へ還元する意欲と適性を有する熱意ある学生を受け入れます。

〔博士前期課程〕
日本大学文理学部社会学科が1920年に創設されて以来、長年にわたる教育・研究活動の中で築き上げてきた「理論と実証と実践（応用）」のいずれをも重視する学風」を土台に据えつつ、社会学の理論的基礎に支えられた専門的知識と社会調査リテラシーをもって、高度に複雑で多様化した社会現象を解明して社会に貢献しうる専門的職業人の育成を目指します。そのため、知的好奇心が旺盛で様々な社会問題に興味・関心を持ち、問題解決に努力を惜しまないチャレンジ精神が豊かな人を受け入れます。

〔博士後期課程〕
より高度な教育・研究指導を受けて、様々な社会問題を的確に分析し考察できる研究能力を備え、国内外の舞台上で活躍できる研究者又は高度な専門的職業人を育成することを目指します。そのため、既成の枠組みにとらわれることのない柔軟な思考力と広い視野を有し、自ら研究計画を立て、課題に向かって邁進できる明確な目的意識と強い研究意欲を持った人を受け入れます。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

社会学専攻社会学コースでは、社会学及び社会福祉学の学問分野を中心に、基礎から応用まで幅広く学ぶことができるカリキュラムを備え、社会が直面する新たな問題に取り組むための高度な実践能力、研究能力が身に付くよう教育課程を編成し、高度な専門性や幅広い教養並びに高い倫理観を形成します。

〔博士前期課程〕
アドミッション・ポリシーに掲げた人材を育成するために、「理論研究領域」「実証研究領域」「応用研究領域」の3領域からなるカリキュラムを編成しています。「理論研究領域」では、研究の堅固な土台を構築するために、社会学の理論・学説史などに関する講義や演習科目を配置します。「実証研究領域」では、家族や都市・地域や社会階層などの実証的研究に関する講義や演習科目を配置し、「専門社会調査士」資格の取得にも対応します。「応用研究領域」では、メディア社会、災害、社会病理、マスコミ、産業労働、などに関わる講義と演習科目を配置し、多様化する大学院生の研究テーマに応えます。また、これらに加えて、修士論文作成のために、複数の研究指導教員が中心となって研究指導にあたります。

〔博士後期課程〕
指導教員による綿密な研究指導のもと、専門分野における研究課題に取り組み、博士論文の作成を進めます。博士論文を完成させるためには、学会発表や学術雑誌への論文掲載などを積み重ねていくことが不可欠であり、そのために、指導教員以外の他の教員からも幅広い研究上のアドバイスを受け、独創的で先進的な研究の展開を図っていきます。

修了の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

社会学専攻社会学コースでは、研究指導教員の指導のもとで行った研究成果が、緻密かつ正確に先行研究を踏まえているか、現代社会が提起する社会学的諸問題に対して問題解決力を示しているか、そこに独創的かつ卓越した観点と見識が備わっているかを判断基準として、以下の学位論文の審査を行います。

〔博士前期課程〕
学位授与に関わる修士論文の審査と最終試験に関しては、社会学の理論と方法に関わる専門的な知識、研究を遂行する上での基礎的な諸能力（語学力を含む）、修士論文の独創性と社会への貢献度が問われます。特に社会学コースのアドミッション・ポリシーの土台ともいえる「理論と実証と実践（応用）」のいずれをも重視する学風」にのっとり、①社会学の理論・学説と方法を深く学び身に付け、②社会学的な思考力や想像力を培い、③現実社会を的確に調査・分析し考察する力を高め、④企画立案と課題解決のための力を養成するという教育研究上の目的に準拠しつつ、その成果が厳正に審査されます。在学期間を通じて、以上のような教育研究上の目的を達成し、将来的に専門的職業を担うことができる能力を有していることが課程修了の基準です。

〔博士後期課程〕
学位授与に関わる博士論文の審査と最終試験に関しては、文学研究科の定める期間内に開催される公聴会において発表を行い、社会学の理論と方法に関わるより高度で専門的な知識を体系的に習得しているかどうか、研究を遂行する上でのより高度で専門的な諸能力（語学力を含む）を身に付けているかどうか、博士論文の独創性・説得性と社会への貢献度がより高い水準で認められるかどうか、積み重ねた研究業績が質・量の両面で評価できるかどうか、研究者又は高度な専門的職業人として資質と倫理性を兼ね備えているかどうか、などが問われます。在学期間を通じて、積極的に学会等へ研究成果を発表することは学位取得の前提であり、かつ高度な専門性を身に付け、自ら課題を見つけ解決できる自立した研究者としての能力を有していることが課程修了の基準です。

修了生の進路

- 青山学院大学
- 札幌学院大学
- 日本大学
- 星槎道都大学
- (独) 労働政策研究・研修機構
- 日本放送協会 (NHK)
- 医療創生大学
- 静岡福祉大学
- 法政大学
- 東北女子大学
- (財) アジア人口・開発協会
- 高等学校教員
- 大妻女子大学
- 帝京大学
- 文京学院大学
- 他
- (財) 長寿社会開発センター
- 他



社会学専攻（社会福祉学コース）

夜間開講を中心にカリキュラムを構成

社会福祉学コースの概要

博士前期課程

社会福祉のニーズが多様化・深化している現代社会では、様々な社会（福祉）問題を分析し解決できる高度な知識と技術を有した人材が求められている。社会福祉学コースでは、国や地方公共団体で活躍する公務員をはじめ、民間福祉施設やNPO・NGO、学校、病院などの様々な機関において、高い専門性と能力と技術を十分に発揮し、それらの機関の中核的存在として貢献できる人材を養成する。

博士後期課程

博士後期課程では、社会福祉学の高度な専門知識、研究方法の修得を目指す学生を求めており、研究対象とする社会福祉学の分野について、高度な専門知識と研究方法を一層深化させ、幅広い視野とバランス感覚を持ち、高度化・多様化・複雑化する福祉ニーズを的確に捉え、研究活動を自立して遂行できる研究者、または教育者を養成する。

主な開講科目

ソーシャルワーク実践理論基礎研究

「人間：環境：時間：空間の交互作用」のもとで展開されるソーシャルワーク実践を俯瞰的に把握するには、人間の「意味世界」の複眼的な理解とシステム思考による全体と部分の階層構造的な理解が必要とされる。社会学において発展してきた「意味世界は社会的に構成される」と定義づける社会構成主義や、「事象は要素と要素の集合からなるシステム」として捉える一般システム理論は、ソーシャルワーク実践を俯瞰的に捉える有用なメタ理論として位置付けられている。本講では、文献の分析を通して「社会構成主義」「一般システム理論」などのメタ理論を学び、ソーシャルワーク実践において新たな視座を創出する研究を行うための基盤習得を目指す。

社会福祉歴史基礎・応用研究

本講義は、大学院での社会福祉研究の基盤となる社会政策の歴史的な流れを、第二次世界大戦前後の主にイギリスとアメリカのソーシャルワーク実践から検討する。福祉国家をめぐる議論や、ソーシャルワークについての議論の変遷やその背後にある社会の変化などに注目して、何を歴史から学べるのかを検討する。さらに、国際的な社会政策の視点を養うために、様々な報告書について学びながら、関連した論文講読を行い、大学院生としての研究テーマに必要な基礎能力を身に付けることを目指し、また、学術論文を輪読して、受講者自身の論文執筆構想の検討もおこなう。

障害者福祉基礎・応用研究

2000年以降の障害者福祉を含む障害者施策は、障害者権利条約の批准に向けた国内法の整備が当事者参画のもとに進められてきた。具体的には障害者基本法の改正、障害者自立支援法に代わる障害者総合支援法の施行に続き、2013年度には障害者差別解消法が制定され（2016年度実施）、わが国は障害者権利条約に批准をした。授業では、このような動向や状況を前提としながら、文献や調査資料等を活用してこれまでの障害者福祉の歴史、思想等を検証することにより、障害者の権利や障害者施策の現在の位置を確認し、これからの方向性を検討していく。加えて、障害当事者による運動の歴史や意義を学ぶ中で、当事者が主体となり、力を発揮できる支援、社会のあり方について理解を深めていく。

社会福祉政策論基礎研究

社会福祉政策は、その時々々の社会経済情勢等に対応した形で今なお変化・発展を続けている。社会福祉政策を深く理解する上では、現在、どのような政策が行われているのかといういわば「結論」にだけ目を向けるのではなく、その形成過程、さらには時代背景や思想的な支柱にも目を向けることが重要になってくる。そこで、本講義では、まず、社会福祉制度の形成過程として、立法のプロセスや様々なアクターの関与について学ぶとともに、戦後から現代に至るまでの間でターニングポイントとなった社会保障制度審議会の答申などの公的な文書や各種の報告書の内容を中心に検討を行う。以上により、社会福祉政策の形成や変遷について理解を深めていく。

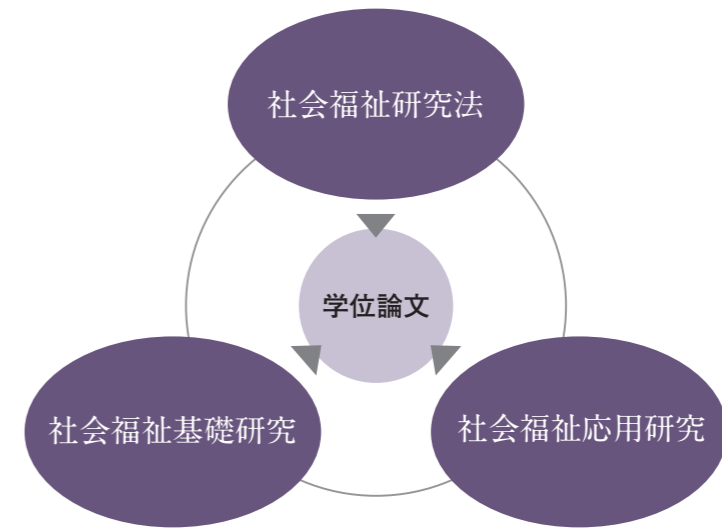
教員紹介（科目担当者含む）

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
太田 由加里 教授	児童福祉、スクールソーシャルワーク
○金子 絵里乃 教授	ソーシャルワーク、臨床死生学
○白川 泰之 教授	社会保障法、居住支援政策
○久保田 純 准教授	ソーシャルワーク実践理論、公的扶助
○諏訪 徹 教授	地域福祉、福祉政策、福祉マネジメント

教員名	専門領域
○高石 啓人 准教授	児童福祉、スクールソーシャルワーク
中野 航綺 助教	福祉社会学・社会政策・地域福祉
宮崎 理枝 教授	ケア労働・移民政策・社会政策
○山田 祐子 教授	高齢者福祉、虐待対応ソーシャルワーク
○吉田 仁美 教授	障害者福祉、障害者ジェンダー統計

履修系統図



社会人のための大学院 夜間開講でサポート！ 専門的キャリアアップをめざし、さらなる一步を！

入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）

社会学専攻社会福祉学コースでは、社会の複雑化とともに高まりゆく社会的要請に対して、社会福祉学の領域における高度な学識と問題解決能力を有することで、学問の進展や、社会に対する積極的貢献に寄与しうる専門的職業人の育成を教育目的とします。本専攻では、この目的のもと、社会福祉学の学問的成果を積極的かつ創造的に社会へ還元する意欲と適性を有する熱意ある学生を受け入れます。

【博士前期課程】
急速な社会の進展に伴い高度で複雑で多様化した社会問題や社会福祉問題に対応するため、確固たる理論的基礎に支えられながらも柔軟な思考力と幅広い視野を持ち、かつ高度な専門的知識とバランスのとれた社会感覚を備え、現代社会の解決すべき諸問題に対して、先進的な社会福祉学の理論と援助技術（ソーシャルワーク）を駆使して、問題解決に向けて積極・果敢に対応できる高度な専門職業人を育成することを目的としています。

【博士後期課程】
博士後期課程では、社会福祉に関する明確な問題意識より専門的な知識・研究方法を修得し、自立的・創造的に研究を進める熱意、また、研究の成果を社会に還元して社会福祉の進展に貢献する意欲を持ち、研究者又は教育者をめざす学生を求めます。

教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）

社会学専攻社会福祉学コースでは、社会福祉学の学問分野を中心に、基礎から応用まで幅広く学ぶことができるカリキュラムを備え、社会が直面する新たな問題に取り組むための高度な実践能力、研究能力が身に付くよう教育課程を編成し、高度な専門性や幅広い教養並びに高い倫理観を形成します。

【博士前期課程】
博士前期課程では、高度専門職、研究者としての基礎的な研究能力を獲得しつつ、専門分野の指導教員による研究指導のもと研究課題に取り組み、修士論文を作成していきます。「社会福祉研究法」「社会福祉基礎研究」「社会福祉応用研究」の3領域からなるカリキュラムを編成し、先進的な社会福祉学の理論と方法を駆使して、問題解決に向けて積極的かつ果敢に対応できる高度専門職、研究者の育成を目指します。また夜間開講を中心にカリキュラムが構成され、社会人入学生も専門的实践を活かして研究を行うことができます。

【博士後期課程】
博士後期課程では、一定の研究能力を基盤としつつ、専門分野の指導教員による研究指導のもと、自らの専門分野において研究課題に自立的に取り組み、博士論文を作成していきます。「社会福祉学研究」を軸としてカリキュラムを編成し論文作成能力や研究発表のためのプレゼンテーション能力の強化にも努め、その成果を専攻内での報告会のほか、積極的に学会発表や学会誌への投稿を積み重ねていくことで、研究をブラッシュアップすることができます。

修了の認定に関する方針 （ディプロマ・ポリシー）

社会学専攻社会福祉学コースでは、研究指導教員の指導のもとで行った研究成果が、緻密かつ正確に先行研究を踏まえているか、現代社会が提起する社会福祉学的諸問題に対して問題解決力を示しているか、そこに独創的かつ卓越した観点と見識が備わっているかを判断基準として、以下の学位論文の審査を行います。

【博士前期課程】
社会福祉の様々な政策及び技術的方法を学び、高度な学識と高い専門的知識を持ち、現代社会が抱える福祉問題への確かな視点と分析能力、政策立案能力を有し、社会の解決すべき諸問題（福祉問題）に対してその専門性を発揮し、社会に貢献できる人材の育成を行います。上記の教育理念のもとに、以下のようなディプロマ・ポリシーを定めています（修士の学位は、以下の修了要件を満たす者に与えられます）。
○知識・理解:人間と社会に関する幅広い教養及び社会福祉に関する高度な専門的知識とともに、福祉社会を支える価値と規範を理解し、社会福祉の実際の現場で実践できる者。
○思考・判断:あらゆる環境に存在する福祉課題を見抜き、社会福祉に関する専門的見地から課題解決の方向を考え判断することができる者。
○技能・表現:問題解決の能力を有し、対象となる個人や集団の多様性を踏まえた上で良好なコミュニケーションを図り、福祉関連機関や職種との信頼関係・協働関係を構築し、連携することができる者。
○関心・意欲:社会福祉のシステムや動向に関心を持ち、福祉増進のために新しい知識や技能を学び、常に主体的に探求し続けることができる者。
○態度・志向性:個々人の人格や人権を尊重し、人々の多様な個性や生き方を認めつつ、福祉の専門家としての使命感や責任感を自覚し、自己自身を成長させ続けることができる者。

【博士後期課程】
博士後期課程では、カリキュラムポリシーに沿った研究活動を行い、専門とする研究分野において、高度で専門的な知識を修得し、自立した研究者として自ら現代社会の抱える社会福祉に係る課題の発見・分析を通じてその解決にアプローチする能力を身に付け、社会福祉の発展に寄与できる人材に博士号を授与します。これらを博士論文、口述試問において示すことができることが必要です。最終審査に当たっては、上記の視点からの審査に加え、研究の独創性、関係する学会での発表や論文の掲載など、在学中の研究活動を含め、今後の研究者または教育者として社会に貢献できる可能性についても考慮します。

社会福祉学コースでの学び

社会学専攻社会福祉学コースカリキュラム（博士前期課程）は、社会福祉の領域に関する基礎的な課題（社会的課題等）に基づき大学院での研究方法に関する「社会福祉研究法」に始まり、研究領域の制度や社会的課題等にアプローチするに当たっての基礎的な課題等に関する研究を進める「社会福祉基礎研究」、専門領域に関してより高度

な研究をするための「社会福祉応用研究」なるカリキュラム構成をし、実践的かつ理論的な研究を行うことを目的とし、それぞれの研究課題にそって専門的実践的な研究を段階的に積み上げることができるカリキュラムを構成としている。社会福祉学コースの特徴である社会人入学生による専門的実践からの課題等を踏まえ、実践課題

の分析から理論構築する研究を行うことができるように、夜間開講を中心にカリキュラムを構成し社会人入学生が専門的実践を活かして高度な研究を行うことで専門性の高い社会福祉専門職を目指すカリキュラム構成にしている。



教育学専攻 (教育学コース)

教育学コースの概要

博士前期課程

前期課程では、教育学の専門的な知識・技能の修得、実践的な知識と深い洞察力の修得を目指す学生を求めており、研究者や教育者などとして社会的貢献を果たそうとする意欲と能力のある学生を迎え入れます。また、教育学の学問分野を柱に、基礎的研究能力を有する研究者の養成を目指すとともに、高度な専門知識をもった人材を養成します。中学校教諭専修免許状（社会）と高等学校教諭専修免許状（公民）の取得が可能です。

博士後期課程

後期課程では、教育学の高度な知識・技能・洞察力の修得を目指す学生を求めており、本格的な研究者あるいは教育者などとしての専門職に就こうとする意欲と能力のある学生を迎え入れます。専攻分野について研究者として高度な研究能力をもつ、研究活動を自立的に遂行しうる優れた研究者を養成しています。

主な開講科目

社会教育学研究

家庭教育学習、成人教育、青少年教育、学校と地域社会との連携などの実態と課題について、実践事例や調査データの分析を通して、社会教育学研究の実証的技法を身に付ける。

日本教育史特論

日本教育史の研究状況について、近代の分野を中心に、その到達点と今後の課題・展望を論じ、研究テーマ設定に必要な基礎的能力の素養を身に付ける。

教育学特殊研究

比較・国際教育学の文献を講読し、グローバルな視点から教育という事象や営みを問う方法を身に付ける。アジア地域の教育の特質を、欧米との類似点や相違点を踏まえ、歴史・文化・社会的文脈に即して実証的に検討する。

教育社会学研究

学術文献の講読・討議を通して、教育社会学の基礎的研究を行う。様々なトピックの最新の研究動向を探るとともに、研究方法や論文執筆の方法についても理解を深める。

教育行政学特論

戦後から現代に至るまでの教育政策を実証的に分析し、望ましい制度・政策・行政の在り方について検討を行う。計量的手法や質的調査の手法を、論文や文献の解題から学び、実際のケースに適合させた分析を行う。

教育内容論研究

学校教育を主な対象とした学術論文、文献の講読・討議を通して、教育内容の編成に係る歴史の変遷や現代課題等を、特に Well-being、学校の魅力化・特色化を Key Words に学校組織、社会政策との関連から検討する。

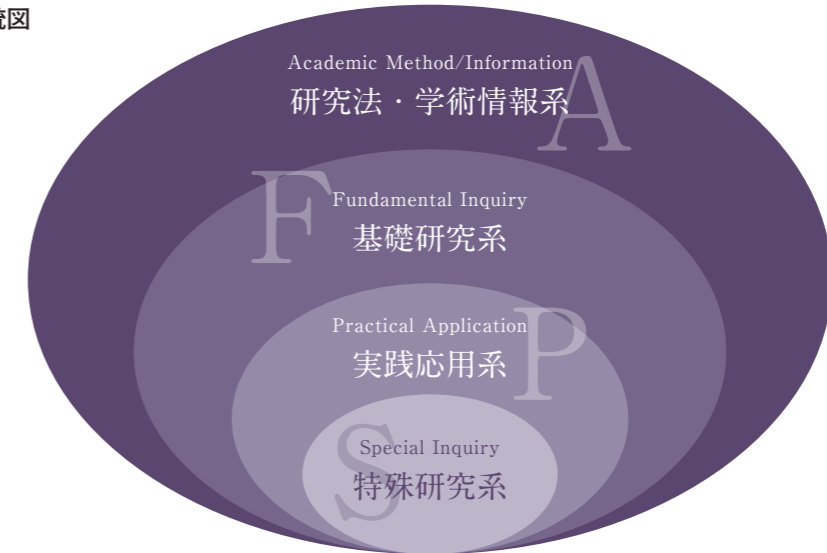
教員紹介 (科目担当者含む)

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
小野 雅章 教授	日本教育史、教育政策史、教育実態史
河野 桃子 准教授	教育哲学、教育思想史、道德教育
梶野 光信 教授	生涯学習論、社会教育論、教育経営学
田中 謙 教授	幼児教育、特別ニーズ教育、組織論、社会政策
○田部 絢子 教授	特別支援教育
杉森 知也 教授	教師教育論

教員名	専門領域
○末富 芳 教授	教育行政学、教育財政学、教育社会学
○日暮 トモ子 教授	比較教育論、教育思想史、教育制度・政策
広田 照幸 教授	教育社会学、教育史、社会史
○間篠 剛留 教授	高等教育論、比較教育論、教育思想史
○望月 由起 教授	教育臨床社会学、キャリア教育、キャリア形成

履修系統図



入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

教育学専攻(教育学コース)は、その修了の認定に関する方針に基づき、教育学及び関連分野の専門的な知識・技能を修得することを通じて実践的な知識と深い洞察力を備えようとする学生を求めており、研究者や教育者として広く社会に貢献できる意欲と熱意のある学生を受け入れます。具体的には、次のような学生の入学を希望します。

[博士前期課程]

- ・ 知的探究に自主的に取り組み、創造的な発想や思考を追究する学生
- ・ 真理を追究する強い情熱と忍耐力を持ち、ねばり強く研究を推進していく学生
- ・ 十分な基礎学力と教養を持ち、新しい知識の修得に柔軟に対応できる学生
- ・ 教育学の特定の専門的知識を有し、高度かつ専門的な知識を活かした職業人、加えて社会への貢献を目指す学生

[博士後期課程]

- ・ 教育学の特定の課題に強い関心を持ち、その知的な探究に意欲を持つ学生
- ・ 教育学における理論的又は実証的研究に自主的に取り組み、創造的な発想・思考を追究する学生
- ・ 教育学における十分な知識を持ち、また、隣接領域とともに知識の修得に柔軟に対応できる学生
- ・ 教育学の特定の専門的知識を有し、高度かつ専門的な研究職に従事することを旨とする学生

教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

教育学専攻(教育学コース)では、教育学に関する多様な知識や理論、課題や手法などに関する幅広い科目を開講し、教育の特定の課題を深く掘り下げ、新たな知見を導き出すための能力が身に付くような教育課程の編成を行い、多様化する知識基盤型社会で求められる、高度な専門性、幅広い教養並びに高い倫理観を形成できるようにしています。

[博士前期課程]

1年次から指導教員を決め、教育学についての基礎知識の修得及び修士論文執筆のための課題設定の方法についての個別指導を行うとともに、授業科目の修得により、教育学の体系的な知識を得ることができるよう配慮しています。

[博士後期課程]

一定水準の研究能力を基盤にし、特定の指導教員のもとで、自立した研究者になるための研究指導を行います。その力点は、学生が独自に課題の設定からその解決ができるようになることです。指導教員を中心に論文作成に関するアドバイスはもとより、研究発表のためのプレゼンテーション能力の強化にも努め、学会発表や学会誌論文作成の手助けを行い、博士論文完成へと指導します。

修了の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

教育学専攻では、教育学又は体育学の専門的な知識・技能と研究能力を基盤にし、現代社会が提起する教育の諸問題に取り組むための広い視野を備え、専門的知識と論理的な考察力をもって広く社会に貢献できる人材の育成を目指します。[博士前期課程] 在学期間を通して、教育学・体育学の専門的知識を修得し、論理的思考能力と問題解決能力を身に付け、自己の知識と能力を実社会に還元しようとする姿勢をもてることが、課程修了の基準です。そのため、在籍期間中に教育学専攻が指定した所定の単位を修得し、指導教員のもとで専門分野の研究を行い、修士論文を執筆することが求められます。そして、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に、修士(教育学又は学術)の学位を授与します。

修士(教育学) (1) 教育学又は体育学に関する体系的かつ専門的な学識を有し、教育に関する諸課題を理論的に理解できる能力を身に付けていること。 (2) 教育学又は体育学に関する課題を論理的に分析し、適切な研究方法を用いて検討を行う基礎的研究能力を備えていること。

修士(学術) (1) 教育学又は体育学を基盤としつつ、心理学、健康・生活科学、医学等の関連領域を横断した学識を有し、単一の学問分野にとどまらない視点から研究対象を理論的・実証的に捉える能力を身に付けていること。 (2) 学際的な研究課題について、研究方法を適切に選択・統合し、成果を学術的に位置付ける基礎的研究能力を備えていること。

[博士後期課程] 在学期間を通して、教育学又は体育学の研究者として自立するため、非常に多岐にわたり、かつ、複雑な教育学又は体育学に関する高度な専門的知識を身に付け、独力で新たな諸課題をみつけ、解決を図ることが修了の条件です。その上で、在籍期間中に教育学専攻が指定した所定の単位を修得し、指導教員のもとで研究に従事し、専門学会などにより一定の評価を受けた上で博士論文を執筆することが求められます。そして、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士(教育学又は学術)の学位を授与します。

博士(教育学) (1) 教育学又は体育学分野において、研究課題の設定から研究計画の立案、実施、成果の公表に至る一連の研究活動を自立して遂行する能力を有していること。 (2) 教育学又は体育学に関する高度な専門的学識を有し、研究成果を教育実践社会の発展に還元できる能力を有していること。

博士(学術) (1) 教育学又は体育学を中核とする学際的領域において、心理学、健康・生活科学、医学等の複数分野の理論及び研究手法を統合し、研究課題の設定から研究計画の立案、実施、成果の発信に至る一連の研究活動を自立して遂行する能力を有していること。 (2) 単一の学問分野の枠組みでは十分に位置付けることが困難な研究課題について、その学問的背景と位置付けを明確化し、学際的意義を論理的に説明できる高度な研究遂行能力を備えていること。

修了生の進路

- 青森大学
- 東京大学
- 大阪府教員
- 調布市立図書館
- 大阪教育大学
- 日本大学
- 千葉県教員
- (財)日本高等教育評価機構
- 金沢大学
- 兵庫教育大学
- 東京都教員
- (株)富士通 他多数



教育学専攻（体育学コース）

体育学コースの概要

博士前期課程

前期課程では、体育学の学問分野を柱に、基礎的研究能力を有する研究者の養成を目指すとともに、高度な専門知識をもった人材を養成します。
体育学の専門的な知識・技能の修得、実践的な知識と深い洞察力の修得を目指す学生を求めており、研究者や教育者などで社会的貢献を果たそうとする意欲と能力のある学生を迎え入れます。
中学校教諭専修免許状（保健体育）と高等学校教諭専修免許状（保健体育）の取得が可能です。

博士後期課程

後期課程では、専攻分野について研究者として高度な研究能力をもつ、研究活動を自立的に遂行しうる優れた研究者を養成します。
体育学の高度な知識・技能・洞察力の修得を目指す学生を求めており、本格的な研究者あるいは教育者などの専門職に就こうとする意欲と能力のある学生を迎え入れます。

主な開講科目

スポーツ栄養学特論

スポーツ栄養サポートの現場で科学的根拠に基づいたマネジメントの方法を知る。
また、アスリートの栄養摂取について国際的な研究成果を調べ、スポーツ現場への情報提供を担う人材としてスキルを習得する。

体育・スポーツ教育学特論

スポーツ教育実践を「生きられる生活世界」として内在的に捉え、そこでの出来事を「意味論理」として記述・構成するための考察視座を獲得することをねらいとする。

バイオメカニクス特論

身体運動の力学的理解に必要な基礎的知識を学ぶとともに、身体運動をバイオメカニクスの視点で検討することの実践への意義、近年のバイオメカニクスの研究の動向などについて学ぶ。

スポーツ社会学特論

わが国のスポーツの歴史社会学研究を手掛かりにしながら、現代日本におけるスポーツの諸課題を鮮明にする。
また関連する学術研究領域の研究動向にも積極的に情報を収集して、スポーツ社会学における学術研究の方向性を探求する。

スポーツ心理学特論

運動・スポーツの課題となる知覚・認知、運動学習、動機づけ、メンタルトレーニングなどについて、代表的な心理学的理論やモデルをもとに理解する。そして、スポーツ心理学の基本的な研究スキルを習得して課題解決のための研究方略を探求する。

スポーツ生理学特論

学術誌を渉猟し、身体運動に対する生理学的応答について理解を深めながら、生活習慣病などと運動・スポーツの関わり、及びスポーツパフォーマンス向上の身体的背景について学術的に探究する。

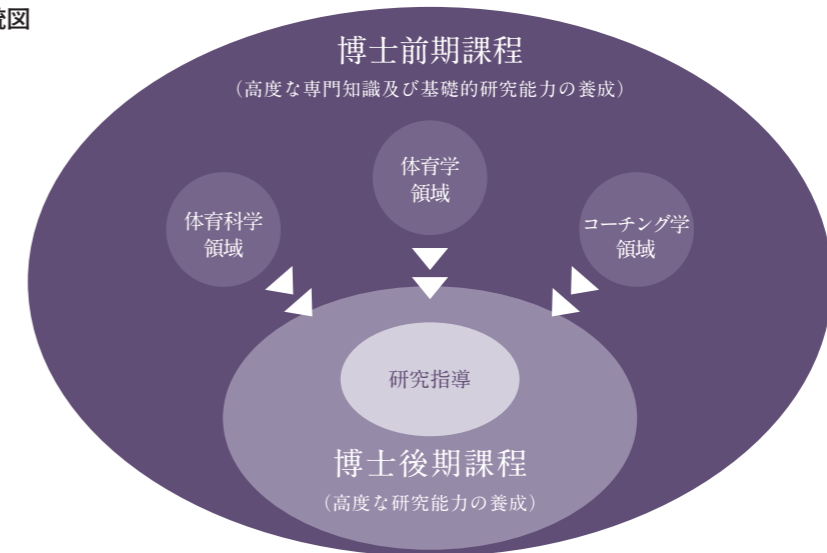
教員紹介（科目担当者含む）

◎印は前期・後期課程研究指導教員
○印は前期課程研究指導教員

教員名	専門領域
◎ 青山 清英 教授	スポーツ運動学、コーチング学
◎ 鈴木 理 教授	体育科教育学、スポーツ教育学、体育・スポーツ哲学
◎ 高橋 正則 教授	測定評価学、コーチング学、スポーツ方法学（テニス）
土屋 弥生 教授	臨床教育学、発達障害と運動形成
◎ 長澤 純一 教授	運動生理・生化学、応用健康科学、環境生理学
水落 文夫 特任教授	スポーツ心理学、スポーツメンタルマネジメント
◎ 小山 貴之 教授	理学療法学、スポーツリハビリテーション
◎ 松本 恵 教授	スポーツ栄養学、スポーツ栄養マネジメント
大嶽 真人 教授	コーチング学、スポーツ方法学（サッカー）

教員名	専門領域
野口 智博 教授	コーチング学、スポーツ方法学（水泳）
橋口 泰一 教授	アダプテッド・スポーツ科学、パラスポーツ、コーチング学
水鳥 宏一 教授	コーチング学、スポーツ方法学（体操競技・器械運動）
○ 伊佐野 龍司 准教授	体育教育学、スポーツ教育学、学校保健教育
金野 潤 准教授	コーチング学、スポーツ方法学（柔道）
城間 修平 准教授	コーチング学、スポーツ方法学（バスケットボール）
○ 関 慶太郎 准教授	スポーツバイオメカニクス、スポーツ方法学（陸上競技）
○ 松浦 由生子 准教授	スポーツ医学、アスレティック・トレーニング、スポーツ理学療法
吉田 明子 准教授	スポーツ社会学、舞踏学、スポーツ方法学（ダンス）

履修系統図



入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

教育学専攻(体育学コース)は、その修了の認定に関する方針に基づき、体育学及び関連分野の専門的な知識・技能を修得することを通じて実践的な知識と深い洞察力を備えようとする学生を求めており、研究者や教育者として広く社会に貢献できる意欲と熱意のある学生を受け入れます。
具体的には、次のような学生の入学を希望します。

[博士前期課程]

- ・ 知的探究に自主的に取り組み、創造的な発想や思考を追究する学生
- ・ 真理を追究する強い情熱と忍耐力を持ち、ねばり強く研究を推進していく学生
- ・ 十分な基礎学力と教養を持ち、新しい知識の修得に柔軟に対応できる学生
- ・ 体育学の特定の専門的知識を有し、高度かつ専門的な知識を活かした職業人、加えて社会への貢献を目指す学生

[博士後期課程]

- ・ 体育学の特定の課題に強い関心を持ち、その知的な探究に意欲を持つ学生
- ・ 体育学における理論的又は実証的研究に自主的に取り組み、創造的な発想・思考を追究する学生
- ・ 体育学における十分な知識を持ち、また、隣接領域とともに知識の修得に柔軟に対応できる学生
- ・ 体育学の特定の専門的知識を有し、高度かつ専門的な研究職に従事することを旨とする学生

教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

教育学専攻(体育学コース)では、体育学に関する多様な知識や理論、課題や手法などに関する幅広い科目を開講し、体育の特定の課題を深く掘り下げ、新たな知見を導き出すための能力が身に付くような教育課程の編成を行い、多様化する知識基盤型社会で求められる、高度な専門性、幅広い教養並びに高い倫理観を形成できるようにしています。

[博士前期課程]

1年次から指導教員を決め、体育学についての基礎知識の修得及び修士論文執筆のための課題設定の方法についての個別指導を行うとともに、授業科目の修得により、体育学の体系的な知識を得ることができるよう配慮しています。

[博士後期課程]

一定水準の研究能力を基盤にし、特定の指導教員のもとで、自立した研究者になるための研究指導を行います。その力点は、学生が独自に課題の設定からその解決ができるようになることです。指導教員を中心に論文作成に関するアドバイスはもとより、研究発表のためのプレゼンテーション能力の強化にも努め、学会発表や学会誌論文作成の手助けを行い、博士論文完成へと指導します。

修了の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

教育学専攻では、教育学又は体育学の専門的な知識・技能と研究能力を基盤としながら、現代社会が提起する教育の諸問題に取り組むための広い視野を備え、専門的知識と論理的な考察力をもって広く社会に貢献できる人材の育成を目指します。

[博士前期課程]

在学期間を通じて、教育学・体育学の専門的知識を修得し、論理的思考能力と問題解決能力を身に付け、自己の知識と能力を実社会に還元しようとする姿勢をもてること、課程修了の基準です。そのため、在籍期間中に教育学専攻が指定した所定の単位を修得し、指導教員のもとで専門分野の研究を行い、修士論文を執筆することが求められます。そして、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に、修士(教育学又は学術)の学位を授与します。

修士(教育学)

- (1) 教育学又は体育学に関する体系的かつ専門的な学識を有し、教育に関する諸課題を理論的に理解できる能力を身に付けていること。
- (2) 教育学又は体育学に関する課題を論理的に分析し、適切な研究方法を用いて検討を行う基礎的研究能力を備えていること。

修士(学術)

- (1) 教育学又は体育学を基盤としつつ、心理学、健康・生活科学、医学等の関連領域を横断した学識を有し、単一の学問分野にとどまらない視点から研究対象を理論的・実証的に捉える能力を身に付けていること。
- (2) 学際的な研究課題について、研究方法を適切に選択・統合し、成果を学術的に位置付ける基礎的研究能力を備えていること。

[博士後期課程]

在学期間を通じて、教育学又は体育学の研究者として自立するため、非常に多岐にわたる、かつ、複雑な教育学又は体育学に関する高度な専門的知識を身に付け、独力で新たな諸課題をみつけ、解決を図るようになることが修了の条件です。その上で、在籍期間中に教育学専攻が指定した所定の単位を修得し、指導教員のもとで研究に従事し、専門学会などにより一定の評価を受けた上で博士論文を執筆することが求められます。そして、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士(教育学又は学術)の学位を授与します。

博士(教育学)

- (1) 教育学又は体育学分野において、研究課題の設定から研究計画の立案、実施、成果の公表に至る一連の研究活動を自立して遂行する能力を有していること。
- (2) 教育学又は体育学に関する高度な専門的学識を有し、研究成果を教育実践社会の発展に還元できる能力を有していること。

博士(学術)

- (1) 教育学又は体育学を中核とする学際的領域において、心理学、健康・生活科学、医学等の複数分野の理論及び研究手法を統合し、研究課題の設定から研究計画の立案、実施、成果の発信に至る一連の研究活動を自立して遂行する能力を有していること。
- (2) 単一の学問分野の枠組みでは十分に位置付けることが困難な研究課題について、その学問的背景と位置付けを明確化し、学際的意義を論理的に説明できる高度な研究遂行能力を備えていること。

修了生の進路

- 日本大学
 - 日本大学附属高等学校
 - 中学校・高等学校教員
 - 東京医療保健大学
 - 國學院大学
 - 駿河台大学
 - 玉川大学
 - 北翔大学
 - ハワイ大学
 - 大阪体育大学
 - (独) 日本スポーツ振興センター
 - 国立スポーツ科学センター
 - (公財) 日本スポーツ協会
 - 味の素ナショナルトレーニングセンター
 - (公財) 東京都スポーツ文化事業団
 - (独) 国際協力機構
 - 皇宮警察本部
 - 大阪シティ信用金庫
 - サッポロビール(株)
- (※ 順不同)



心理学専攻（心理科学コース）

専攻の概要

博士前期課程

心理学の専門家として幅広い問題解決が可能な人材を育成します。そのための知識や研究力を獲得するために、様々な領域の講義が開講されており、認知心理学、生理心理学、社会心理学、環境心理学、健康心理学、発達心理学などについて基礎から応用まで多様なテーマについて研究指導を行っています。大学院特別講義では、国内外の研究者を招聘し、講義が行われます。また、多くの実験、面接室を有し、研究に必要な設備を実現しています。自らの研究をプレゼンテーションする経験とスキルの涵養を重要と考えています。このような機会として大学院研究発表会があり、専任教員及び大学院生全員が参加し、活発な議論がされています。

公認心理師受験資格の取得について

専門領域での研究を行いながら公認心理師受験資格が得られる公認心理師プログラムを平成31年度(2019年)より設置しました。公認心理師受験資格には、大学等で必要な科目を履修している必要があります。実習先としては、国立高度専門医療研究センター病院(精神腫瘍科)、私立病院(精神科・心療内科)、クリニック(心療内科)、保育園、中学校、高等学校、障害児・者施設、高齢者施設等があり、公認心理師として実践の場で必要となる多様な知識や経験を得るために、様々な施設で実習を行うことができます。

博士後期課程

心理学専攻博士後期課程は前期課程とは異なりコースには分かれていません。博士後期課程に進学した学生は、前期課程が2つのコースが分かれて以来、その多くが本学心理科学コースからの進学者となっていますが、他大学の博士前期課程(修士課程)修了者も後期課程へ進学しています。博士後期課程では、心理学や関連領域において高度な先端研究を自律的に遂行する能力、そのための豊かな学識を養うことで斯界の発展に貢献できる人材を養成します。後期課程では、研究活動を積み重ね、得られた研究成果を論文としてまとめ、学会発表や専門学術雑誌に投稿するなど活発な研究活動を行うことが求められます。研究成果を学位論文として提出し、審査に合格すると博士(心理学)の学位が授与されます。

主な開講科目

心理学研究法特論

研究の方法論を基本から応用まで横断的に理解し、研究計画立案や分析で誤りやすい点について学ぶことで、心理学における科学的な思考法や研究法の特徴を知るとともに、自身の研究活動に活かせるようになることを目標とする。

認知心理学特論

人の判断や理解、推測といった機能について、認知心理学領域のなかで論争となっているテーマの書籍・論文を読み、研究における理論の重要性について議論を行い、自身の研究の理解も深める。

社会心理学特論

社会的認知研究を授業テーマとして、最近の発展をレビューしながら、実証的の原典論文を批判的に講読する。受講者が関心を持つ原典論文について発表し、全員で議論を行う。

環境心理学特論

人間とそれを取り巻く環境の関係を扱う環境心理学を授業テーマにして、主要な研究論文を取り上げて討議を行い、また研究法に関しても実習を含めながら学修を深める。

教員紹介（科目担当者含む）

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○岡 隆 教授	社会心理学
○坂本 真士 教授	社会心理学、臨床社会心理学
○内藤 佳津雄 教授	認知心理学、老年心理学・老年学
○羽生 和紀 教授	環境心理学

教員名	専門領域
○松浦 隆信 教授	臨床心理学、臨床社会心理学
○望月 正哉 教授	認知心理学、教育心理学
依田 麻子 特任教授	生理心理学、健康心理学
齋藤 慶典 准教授	生理心理学
畦地 良平 准教授	臨床心理学、老年心理学



履修系統図 (心理科学コース)

入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)

心理学専攻では、今後更なる発展が予想される心理学の諸領域、あるいは関連領域において求められる高度な学識と技能を有することで、学問の進展に寄与し、専門的職業に従事する人材を育成することを教育目的とします。本専攻ではこの目的のもと、心理学を独創的に社会へ還元することの意欲と適性を有する次のような学生の入学を希望します。

【博士前期課程】
心理学の専門家として学問の進展に寄与するために、基礎学力を有しつつ、専門・分化した心理学の知識の全体を俯瞰しながら、自主的に研究する意欲的な学生を迎え入れます。

【博士後期課程】
心理学領域及び関連領域において国際的かつ先端的な研究指向性を有し、研究・教育あるいは高度に専門的な業務に従事して斯界の発展に貢献しようとする学生を迎え入れます。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)

心理学専攻は、心理科学及び臨床心理学の学問分野を柱に、基礎から応用まで幅広く学ぶことができるカリキュラムを通して、有能な人材を養成します。

【博士前期課程】
心理学の幅広い領域の講義科目を履修することによる「専門的知識の獲得」、高度な研究環境の中での活発な「研究活動の実践」、自身の研究成果を適切に発表し討議するための能力を身に付けるための「研究発表」を主軸として、心理学の専門家として高水準の知識とスキルを身に付けられるカリキュラムを編成しています。

【博士後期課程】
専攻分野における研究者として自立した研究活動を行い、さらに高度な研究能力及び研究活動の基礎となる豊かな学識を養いながら将来の心理学界を担うべき人材を養成しうるカリキュラムを編成し実施します。実施に関して具体的には、専門性の高い研究課題に関して指導教員によって研究計画の段階から指導を受け、専攻所属の他の教員からも自己の専門領域に關係する知見等を学べます。博士論文執筆を念頭においた研究に取り組み、学会等での研究発表や、学術雑誌等への論文投稿を行います。加えて、年度毎に、それまでの研究成果や今後の研究課題等を専攻所属の全専任教員・全大学院生に向けて発表する大学院研究発表会があります。

修了の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

心理学専攻では、十分な心理学の知識と技能を基盤として、多面的かつ総合的な思考力と実社会における問題解決力を持ち、社会からの附託に応えられる人材を輩出することを目的としています。

【博士前期課程】
専門分野における幅広い学識と研究法を修得し、将来的に専門的職業を担うことができる能力を有していることが課程修了の基準です。

【博士後期課程】
専門とする当該研究分野における専門的知識、方法論、理論等に精通し、自ら研究課題を発見し、その課題を創造的に解決できる高度な専門性を身に付けるとともに、新たな心理学研究を創出する能力を有していることが課程修了の基準です。

近年の修士論文・博士論文の題目

【修士論文】

- ・「潜在的自尊感情」と自己特性に関する諸概念との関係の検討
- ・多水準自己概念とリーダーシップの関連 — 個人差に注目して—
- ・ネガティブ感情とSNSにおける攻撃との関連の検討
- ・日本と中国の高齢者ステレオタイプとその改善 — 大学生を対象として—
- ・解釈レベルがステレオタイプ抑制によるリバンド効果に与える影響
- ・中国語—日本語バイリンガルにおける心理特性の文化的フレームスイッチング
- ・謝罪行動と個人特性及びストレスの関連性の検討
- ・対人コミュニケーションにおける表情の効果
- ・The Role of Human Agency in Facilitating Positive Psychological Dispositions (ポジティブな心理的特性を促進することにおける主体性の役割)
- ・自己から注意を逸らす目的としてのインターネット・SNS利用の可能性

【博士論文(心理科学コース教員が主査を務めた論文)】

- ・審美的価値観と絵画の美的評価との関連についての心理学的検討
- ・レスビアン及びゲイ男性に対する異性愛者の偏見に仮想接触が及ぼす効果 — 日本大学生を対象とした検討 —
- ・高齢者ケアにおけるワーク・エンゲイジメント
- ・認知制御と行動パフォーマンスに関する生理心理学的研究
- ・目撃者の信頼性評価に関する心理学的研究 — 確信度の一貫性と目撃者の年齢からの検討 —
- ・他者からの視点取得の表明に関する心理学的検討



心理的アセスメントの授業風景



生理心理学特論での実験風景

修了生の進路

- 神奈川県警科学捜査研究所
- 奈良県警科学捜査研究所
- (株)JTB
- 国際医療福祉大学
- 聖徳大学
- 日本体育大学
- 警視庁科学捜査研究所
- 明治安田こころの健康財団
- 大阪産業大学
- 埼玉工業大学
- 東北文化学園大学
- 立命館大学
- 森林総合研究所
- (株)オリエンタルランド
- 金沢工業大学
- 静岡福祉大学
- 日本大学商学部
- (株)博報堂 (※ 順不同)



心理学専攻（臨床心理学コース）

専攻の概要

博士前期課程

前期課程臨床心理学コースでは、臨床心理学の学習課題を体系的に履修し、臨床心理学研究と心理臨床実践の両面について指導を受けます。本コースでは心理学を土台に、臨床・研究・教育のバランスの取れた心理臨床家を育成することを基本方針とし、講義や研究発表など多くの活動を心理科学コースとともに行います。本コースの必修科目は、実習とそれを支える基礎臨床科目で構成され、日本大学文理学部心理臨床センターにおける学内実習が1年次前学期修了後よりスタートします。学外実習としては、1年次後学期からは世田谷区内の小中学校で週1回の実習が可能です。さらに2年次になると日本大学医学部附属病院をはじめ、総合病院精神科、精神科病院などの医療領域の機関に赴き、一年間を通して毎週定期的に実習することになります（診察陪席、デイケア、集団CBT、回想法など）。その他、福祉、司法・犯罪、産業・労働の見学実習等も行われるので、5分野すべてを網羅した実習が可能です。本コースは公認心理師カリキュラムに対応しており、（公財）日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定校に認定されているので、それぞれの必要な科目を履修して修了すると、「公認心理師」と「臨床心理士」の受験資格を得ることができます。※ただし、公認心理師については、学部にて特定の科目を履修していることが必要です。

博士後期課程

後期課程では、本学大学院若しくは他大学の博士前期課程（修士課程）を修了した学生に対し、さらに高度な研究指導を行います。今後更なる発展が予想される心理学の諸領域、あるいは心理学の関連領域において高度な先端研究を自律的に遂行する能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことで、斯界の発展に貢献できる人材を養成します。そのため後期課程では、研究活動を積み重ねることによって得られた研究成果に対し、学術論文の投稿を含め学内外において活発に研究発表を行うことが求められます。学位論文を提出し、審査に合格すると博士（心理学）の学位が授与されます。

主な開講科目

臨床心理学特別演習（含実習）1～6

臨床心理学コースの大学院生が全員揃い、臨床心理学コースの専任教員も全員揃う、唯一の授業である。院生と専任教員によるケースに関する検討を行う。また、倫理や法律を学ぶ回も必ず含まれる。

学校臨床心理学特論

本授業では、スクールカウンセリングでの架空事例について、もし自分がスクールカウンセラーだとすると、どのような対応が望ましいのか、各自の支援プランを作成・発表し、検討を行っている。

臨床心理面接特論1（心理支援に関する理論と実践）

修士1年前期に開講される。本授業では、臨床心理面接に関する基本的理論を、各自で調べ発表し、グループで討論すると共に、ロールプレイ等の体験学習を行い、支援者としての面接能力を育てる。

臨床心理基礎実習1・2

心理臨床センターでの学内実習に向けて、電話受付、院生インテーク、心理面接、心理検査等のロールプレイや録画の視聴を通して、2名の専任教員が基礎的な臨床的対応のきめ細やかな指導を行う。

教員紹介（科目担当者含む）

○印は後期課程研究指導教員

教員名	専門領域
○岡田 和久 教授	臨床心理学（ブリーフセラピー）
○菊島 勝也 教授	臨床心理学（児童・青年期の不適応問題）
○近藤 孝司 教授	臨床心理学（心理検査、職業的発達）
津川 律子 特任教授	臨床心理学（心理アセスメント、抑うつに関する心理支援）

教員名	専門領域
河野 千佳 准教授	臨床心理学（小児科領域における心理臨床、母性心理学）
田中 崇恵 准教授	臨床心理学（深層心理学、心理療法）



履修系統図（臨床心理学コース）

入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

心理学専攻では、今後更なる発展が予想される心理学の諸領域、あるいは関連領域において求められる高度な学識と技能を有することで、学問の進展に寄与し、専門的職業に従事する人材を育成することを教育目的とします。本専攻ではこの目的のもと、心理学を独創的に社会へ還元することの意欲と適性を有する次のような学生の入学を希望します。

〔博士前期課程〕
心理学に関する基本的な知識と技能を有していることを前提とします。その上で、臨床心理学の学修課題を体系的に履修し、心理臨床実践と臨床心理学研究の両面において実際に遂行する意欲を持った学生を迎え入れます。

〔博士後期課程〕
心理学領域及び関連領域において国際的かつ先端的な研究指向性を有し、研究・教育あるいは高度に専門的な業務に従事して斯界の発展に貢献しようとする学生を迎え入れます。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

心理学専攻は、心理科学及び臨床心理学の学問分野を柱に、基礎から応用まで幅広く学ぶことができるカリキュラムを通して、有能な人材を養成します。

〔博士前期課程〕
心理学を土台とし、臨床・研究・教育のバランスのとれた臨床心理職者の養成を基本方針とします。必修科目は、学内・学外における実習とそれを支える多彩な臨床心理学関係科目で構成されています。また、学内実習の場でもある心理臨床センターでは、地域貢献活動を通して様々な実践経験を積みまます。

〔博士後期課程〕
専攻分野における研究者として自立した研究活動を行い、さらに高度な研究能力及び研究活動の基礎となる豊かな学識を養いながら将来の心理学界を担うべき人材を養成しうるカリキュラムを編成し実施します。実施に関して具体的には、専門性の高い研究課題に関して指導教員によって研究計画の段階から指導を受け、専攻所属の他の教員からも自己の専門領域に関する知見等を学べます。博士論文執筆を念頭においた研究に取り組み、学会等での研究発表や、学術雑誌等への論文投稿を行います。加えて、年度毎に、それまでの研究成果や今後の研究課題等を専攻所属の全専任教員・全大学院生に向けて発表する大学院研究発表会があります。

修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

心理学専攻では、十分な心理学の知識と技能を基盤として、多面的かつ総合的な思考力と実社会における問題解決力を持ち、社会からの附託に応えられる人材を輩出することを目的としています。

〔博士前期課程〕
専門分野における幅広い学識と研究法を修得し、将来的に専門的職業を担うことができる能力を有していることが課程修了の基準です。

〔博士後期課程〕
専門とする当該研究分野における専門的知識、方法論、理論等に精通し、自ら研究課題を発見し、その課題を創造的に解決できる高度な専門性を身に付けるとともに、新たな心理学研究を創出する能力を有していることが課程修了の基準です。

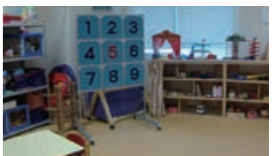
近年の修士論文・博士論文の題目

【修士論文】
・境界例心性をもつ重要な他者と関わる者が認識する情緒的巻き込まれ
・青年期のコーピングスタイル、特性的自己効力感および友人関係の在り方と抑うつの関連
・通常学級における発達障害児に対する級友の態度に及ぼす担任教師の影響
・女子大学生における月経前の対処行動がPMDDに及ぼす影響についての検討
・バウムテストの不安指標と留学生の不安—中国人留学生の描画特徴と事例報告
・他者からの賞賛を求める欲求と対人恐怖心性との関連について
・大学生における親からの期待の認知と完全主義及び抑うつとの関連
・大学生の自閉症スペクトラム傾向と対人関係の意味付けの検討
・子の不登校を経験した母親の育児感情に関する検討

【博士論文（臨床心理学コース教員が主査を努めた論文）】
・大学生における無気力の心理学的研究—スチューデント・アパシーと抑うつの視点から—
・抑うつの認知的特徴に関する臨床心理学的研究
・慢性統合失調症者におけるぬり絵を用いた縦断的な臨床心理学的検討



心理臨床センターの面接室



プレイルーム

修了生の進路

これまでに臨床現場で活躍している卒業生・修了生は全国で現在400名を超えている。

- 警視庁（心理専門職） ● 茨城西南医療センター病院 ● 神保町メンタルクリニック ● 日本大学医学部附属板橋病院精神神経科 ● 明治学院大学心理学部
- 横浜市心理職 ● 市川市子ども発達センター ● 児童養護施設まつば園 ● 東京大学医学部附属病院 ● 各種自治体の教育相談機関

【合格率】

臨床心理士 2004年3月修了（一期）生以降の受験者100% 2023年3月修了生の受験者100%
公認心理師 2018年3月修了生以降の受験者97.6% 2024年3月修了生の受験者100%



奨学金・研究奨励費制度 (概要)

日本大学大学院文学研究科では、大学院生の勉学意欲に応えるための支援制度として、様々な奨学金制度、研究奨励費制度等を設け、多くの学生がこの制度を利用して研究に励んでいます。

01 日本大学の奨学金制度

名称	対象	金額	給付・貸与
古田奨学金	学業成績が優秀で人物が優れている者	20万円	給付
ロバート・F・ケネディ奨学金	学業成績が優秀で人物が優れている者	20万円	給付
日本大学創立100周年記念外国人留学生奨学金	外国人留学生で学業成績が優秀で人物が優れている者	授業料相当額の半額	給付

02 文学研究科・文理学部の奨学金制度

名称	対象	金額	給付・貸与
文理学部奨学金(第1種)	学業成績・研究業績が優秀で人物が優れている者	40万円	給付
文理学部奨学金(第2種)	外国人留学生で学業成績・研究業績が優秀で人物が優れている者	40万円	給付
大学院生特別奨学金	古田奨学生、ロバート・F・ケネディ奨学生	授業料相当額	給付
後援会奨学金	経済的理由により学費等の支弁が困難な者	24万円	給付
校友会奨学金	経済的理由により学費等の支弁が困難な者	24万円	給付

03 文学研究科・文理学部の研究奨励費制度

名称	金額等	名称	金額等
大学院奨励研究費(後期課程のみ)	上限15万円	大学院生学会(海外)発表補助金	年度内1回(150,000円を限度とする)
大学院学術論文奨励助成金	応募要領において定める	大学院生学会(国内)参加補助金	年度内2回(1回につき40,000円を上限とする)

04 日本学生支援機構奨学金制度

独立行政法人が運営する、貸与型の奨学金制度です。例年4月上旬及び10月上旬に募集案内を行います。家計状況が急変し、経済的に緊急を要する場合は、随時申込を受け付けています。

05 地方公共団体・各種奨学財団の奨学金制度

出願資格などは各団体により異なります。当該団体から募集があった場合に、COMITS2で随時お知らせしています。

ティーチング・アシスタント(TA)、グラデュエイト・スチューデント・アシスタント(GSA)制度等について

文学研究科大学院生の多数が、ティーチング・アシスタントとして授業担当教員の指示により学部学生の教育を補助し、実験・実習及び演習の教育補助業務に携わっています。大学院生で担当科目に対する専門的知識及び高度な技量を持つことを資格とし、事前講習等でTA業務に関する指導を受け、教育補助業務に従事します。TA業務を通じて、将来教育職・研究職を目指す際の貴重な経験を蓄積することができます。また、担当科目の内容を理解し、その遂行に熱心な大学院生を対象とするGSA制度もあります。さらに、学生の自主的学習スペースである「ラーニングcommons」の学習アドバイザー「ラーニング・アシスタント」(LA)を担当することもできます。

大学院文学研究科大学院生の主な留学先(海外学術交流協定校)

華東師範大学 (中国)	ヨハネス・ゲーテンベルク大学 (ドイツ)	ベルリン自由大学 (ドイツ)
----------------	-------------------------	-------------------

大学院文学研究科の関与する研究所

大学院文学研究科の関与する研究機関として日本大学人文科学研究所、情報科学研究所があります。人文科学研究所では紀要の発行のほか、総合研究・共同研究など数多くのプロジェクトが活動を続けています。さらに理系の研究者と共同研究を行う情報科学研究所では、学内研究資金のほか、文部科学省等の学外研究に採択され、資金を獲得するなど、より一層発展、拡充した成果の追究を行っております。

若手研究者育成制度

独立行政法人日本学術振興会特別研究員と併せて、次世代を担う若手研究者を育成するための大学院文学研究科独自の制度として、若手特別研究員(ポスト・ドクトラル・フェロー)制度により学位取得後の研究者支援を行っております。

教育職員免許状取得

大学院博士前期課程を修了して取得できる教育職員免許状は、中学校教諭専修免許状・高等学校教諭専修免許状です。なお、専修免許状取得には、学部における一種免許状取得に係る要件を満たす必要があります。取得できる免許状の種類は次のとおりです。

専攻	免許種及び教科	
	中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
哲学	社会	公民
史学	社会	地理歴史
国文学	国語	
中国学	国語	
英文学	英語	
ドイツ文学	ドイツ語	

専攻	免許種及び教科	
	中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
社会学(社会)	社会	公民
社会学(社会福祉)	—	—
教育学(教育)	社会	公民
教育学(体育)	保健体育	
心理学	—	—



研究サポート

図書館

図書館は、アナログ資料とともにデジタル資料も閲覧・調査できる施設です。現在、本図書館が所蔵する図書及び視聴覚資料の総数は約96万冊(点)。特に研究に必要な各種データベースを取り揃えており、様々な研究分野に対する情報検索・記事閲覧が可能です。また、国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスの利用も可能です。

開館時間

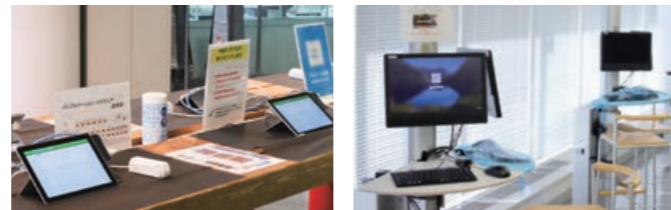
平日 9:00～20:00 / 土曜 9:00～19:00
閉室日 日曜・祝日(授業実施日を除く)、
その他大学が定める日
※ 開館時間等は変更となる場合がありますので、
図書館ホームページ (<https://chs.nihon-u.ac.jp/campus-life/kyogaku-s/library/>) を御確認ください。



インフォメーション・スクウェア



約170台のコンピュータが配置された自習用スペースです。用途によって、メールやWEB閲覧を中心としたゾーン、画像や動画編集ゾーン、LL自習ゾーンと3つのエリアに分かれています。一部のエリアでは発話を伴うオンライン授業の受講も可能です。また、無線LANも設置されているので、ノートPCを持ち込んでインターネットを利用することもできます。調査・収集したあらゆる情報を、コンピュータセンターのシステムを用いて加工・編集することができます。



ラーニングコモンズとアカデミックコモンズ

1 ラーニングコモンズ

自主的に学ぶ公共的な空間です。ここではPC専用席など、様々な形態のテーブルや椅子が配置されています。ホワイトボードが用意されており、自由に利用できます。また、固定式の大型プロジェクターや貸出用の小型プロジェクターを用意してあります。機器の使用についてはサポートデスクで申請をしてから利用してください。



2 アカデミックコモンズ

学生のみなさんと教職員が談話したり、議論したりする空間です。ラーニングコモンズと同じくホワイトボードを自由に利用できます。ただし、学生のみでの利用はできません。



1 2 とも、曜日や時間帯によっては学部内の各部署によるイベントが行われます。

 日本大学大学院 文学研究科

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40 Tel 03-5317-8497 Fax 03-5317-9444

<https://chs.nihon-u.ac.jp/gs-lss/>

